



20 ANNUAL 25 REPORT

法政大学 ソーシャル・イノベーションセンター

目次

ご挨拶	2
SIC 運営体制(2025 年度)	3
SIC の概要	3
特集:SIC の新スペース(Patio/mogoo)	5
学生プロジェクト	7
SIC 教員プロジェクト	29
SIC 教育プログラム「たまらぼ」	32
SIC カフェ	36
イベント	39
ボランティア	42
授業	45
資料	46



SIC
Social Innovation Center

ご挨拶

法政大学多摩キャンパスを社会課題解決の拠点にすべく、2023年4月に「ソーシャル・イノベーションセンター（SIC）」を開設しました。2013年度に開設した多摩地域交流センター（HUCC）を発展的に改組し、多摩キャンパスのボランティアセンターも統合することで新設した組織です。

SICのビジョンは、「社会課題を解決するための革新的な仕組みをつくり続ける中心的な拠点になること」であり、具体的なミッションとしては、1) ソーシャル・イノベーションマインドを醸成し、実践に結び付けるための人財育成・輩出、2) ソーシャル・イノベーションに関する研究の推進、3) ソーシャル・イノベーションのためのトライセクター連携の推進を行うことを掲げています。

多摩キャンパスは町田市、八王子市、相模原市の市境に立地し、周辺地域にはさまざまな社会課題が存在しています。HUCCの10年間の歴史のなかで、学生たちは周辺地域との交流を深め、近隣住民のみならずとともに、市街地・ニュータウン地域、および農村・中山間地域におけるさまざまなフィールドで社会課題の解決にチャレンジしてきました。団地や商店街の活性化、地域コミュニティの再生、災害対策、伝統文化の継承、耕作放棄地の有効活用、サーキュラー・エコノミーの実践等に取り組み、課題解決に向けた成果がみえ始めるとともに、事業化の可能性も広がりつつあります。

SICの最大の特徴は、これらの地域交流を核とした学生主体のプロジェクトにあります。大学によるソーシャル・イノベーションの取り組みはファンドを活用した起業支援や教員主導のプロジェクトが中心となるケースが多いなかで、SICでは学生が主体となり、近隣住民のみならずと協働しながら社会課題の解決に取り組んできました。今後これらの果実を大切に引き継ぐとともに、周辺地域との交流をより一層深めながら、企業や行政とも連携を図りつつ、社会課題を起点としたソーシャル・イノベーションを目指していきます。

なお、当センターは本学教職員で構成される「ソーシャル・イノベーションセンター運営委員会（センター長、副センター長含む）」によって運営され、日常業務はコーディネーター、本学職員、および学生スタッフが担うユニークな運営形態をとっています。当センターの取り組みに関心のある方は、どなたでもお気軽にお問い合わせ、お立ち寄りください。近隣住民、企業、行政のみならずには、変わらぬご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2026年4月

法政大学ソーシャル・イノベーションセンター長
野田 岳仁（現代福祉学部 教授）

SIC 運営体制(2025 年度)

(2026 年 3 月時点)

センター長	野田 岳仁 (現代福祉学部 准教授)
副センター長	樋口 明彦 (社会学部 教授)
運営委員	田中 優希 (経済学部 教授)
	谷本 有美子 (社会学部 准教授)
	水野 雅男 (現代福祉学部 教授)
	高見 京太 (スポーツ健康学部 教授)
連携研究員	千葉 岳志 (日本郵政株式会社 スポーツ&コミュニケーション部長)
	木暮 美菜 (埼玉大学大学院人文社会科学研究科 専任講師、法政大学 兼任講師)
コーディネーター	本野 直子
	小幡 あゆみ
事務局	多摩事務部 多摩事務課 学務担当
SIC 学生スタッフ	
修士 2 年	1 名
4 年生	2 名
3 年生	1 名
2 年生	8 名
1 年生	19 名

SIC の概要

法政大学多摩キャンパスは、郊外型のベッドタウンが広がる市街地エリアと、古くからの自然・伝統の残る農山村エリアの中間に位置しています。そのため、日常的に様々な特徴を持った環境に触れることができ、全国のあらゆる社会課題を考えるための基礎となる数々の事例に接することができるという強みを持っています。「法政大学ソーシャル・イノベーションセンター (SIC)」は、この環境を最大限に生かし、様々な社会的課題の解決にチャレンジできる場所として 2023 年 4 月に開設されました。

現在、SIC には 400 名以上の学生が所属し、多摩キャンパスの周辺地域を中心に様々なフィールドでそれぞれの活動に取り組んでいます。

SIC の特徴と取り組み

SIC は、多摩地域交流センター（HUCC）の時代の活動から積み重ねられたコミュニティ・ベース、スチューデント・ベースの場であるという特徴を持っています。これまで、その特徴を最大限に生かしながら、市街地・ニュータウン地域、および農村・中山間地域におけるさまざまなフィールドで社会課題の解決にチャレンジしてきました。そのような取り組みの大半が、学生の自主的な志によって生まれ、育ってきたということが、現在の SIC の大きな財産となっています。

その財産を生かしながら、SIC では今後も、以下の5つの活動を軸として地域社会の課題解決に向けた取り組みを一層進めてまいります。



SIC のミッション

SIC は、個人の利益のみならず社会全体の価値の創出を目指して、様々な社会的課題の解決に取り組みます。その解決にあたっては、効率性・持続可能性・効果的・包摂的・公正さといった観点から一層イノベティブな方法を模索し、ソーシャル・イノベーションを推進していきます。その活動は、以下を目的とします。

- ソーシャル・イノベーションを実践しようとする「ソーシャル・イノベーション・マインド」の醸成、ソーシャル・イノベーションを実践する人材の育成・輩出を行うこと
- ソーシャル・イノベーションに関する事業や研究活動の支援を行うこと
- ソーシャル・イノベーションのためのトライセクター（大学・地域・営利および非営利団体）との連携推進を図ること
- 多様なイベントを地域に開いていくことで、多摩キャンパスの活性化を図り、同時にキャンパス内外にさらに豊富な知見・情報・人のネットワークを創出すること

特集

SIC の新スペース(Patio/mogoo)

SIC は多摩キャンパス内にある 2 ヶ所の空きスペースを学生のための居場所やイベントのできるスペースとしてオープンするための準備を進めてきました。2025 年度は、学生たちが DIY でスペースの改修を行い、プレイベントを開催するなどの取り組みを行いました。



SIC は開設から 3 年が経過し、SIC で活動するプロジェクトや所属学生数も年々拡大しています。そこで、学生の活動の場やソーシャル・イノベティヴな実践に触れる機会を増やすために、SIC では 2025 年から多摩キャンパスの空きスペース活用に向けた取り組みを開始しました。もともと売店の跡地であった Patio (パティオ) と mogoo (モグー) の 2 ヶ所を、学生たちが様々なことにチャレンジできる場所としてリニューアルオープンするために、SIC や有志の学生チームで協力し、開設に向けた準備を進めてきました。

2026 年 4 月には 2 つの新スペースが正式に利用開始となり、SIC の活動のさらなる拡大を目指していきます。

Patio:6 号館食堂階段下(社会学部エリア)

大学での学びを豊かにするための場所として、SIC が運営するスペースです。部屋にはプロジェクターが設置されており、様々な興味関心を持った学生間の交流会やイベント実施、ゼミでの活動など様々な用途で使うことができます。

mogoo:11 号館食堂 1階(経済学部エリア)

多摩キャン生の「やりたい！」を形にできる場所として運営するスペースです。壁などの改修は学生たちがDIYで行いました。社会課題解決のアイデア実現に向けた調査や実験イベントを実施できるだけでなく、フリースペースとしても開放されています。

【Patio】



【mogoo】



学生たちによるリニューアルプロジェクト

新スペース (Patio と mogoo) の活用にあたっては、有志の学生が集まり、壁の補修や色塗りなどDIYによる改修作業を進めてきました。大学の施設保全部や専門業者の方のアドバイスを受けながら作業を行い、室内の家具も大学で不要となった什器を再活用。自らの手で「居場所づくり」をするという貴重な体験となりました。

改修作業に関わった学生達は、その後スペースの運営に携わる学生スタッフとして「MoPA」という名でチームを組み、スペースを利用した学生活動のサポートや交流機会の創出に取り組んでいきます。



イベント

スペースの改修作業と並行して、新スペースの認知度を上げるための様々なイベント実施にも取り組みました。MoPAが中心となり、SICで活動する他の学生プロジェクトなどと協力しながら、学生同士の交流会や、キャンパス近隣事業者と協力したカフェイベントを実施。その他にも、カラオケ大会や映画の鑑賞会など学生の関心を惹くようなイベントを行うことで、まずはスペースに足を運んでくれる学生を増やすことを狙いました。

今後は、学生企画のイベントはもちろんのこと、ゼミでの教育・研究活動やキャリア支援、さらにDEI (Diversity Equity & Inclusion) 推進など、教員や他部署とも協働しながら、多摩キャンパスの多様な学びを生み出す拠点となることを目指して活用をすすめていきます。



学生プロジェクト

キャンパス周辺をはじめとした地域社会の課題解決やイノベーションの実践に取り組む研究やゼミ、サークル、個人活動を SIC に登録すると、様々な支援を受けることができます。特に、学生主体のプロジェクトには助成金制度もあり、多種多様な課題への取り組みをサポートします。



【2025 年度に活動した SIC 学生プロジェクト】(23 団体)

- | | | |
|----------------|--------------------|------------------------|
| ■SIC 学生スタッフ | ■Team Circulation | ■もとはち水縁プロジェクト |
| ■館ヶ丘プロジェクト | ■しろやまふれんず | ■フェアトレード推進プロジェクト terra |
| ■寺田団地活性化プロジェクト | ■法政馬広場 | ■SIC 学生ボランティアスタッフ(※) |
| ■わくわくほうせい! | ■若葉台プロジェクト | ■新スペース運営チーム MoPA(※) |
| ■佐野川プロジェクト | ■あつまれ緑区プロジェクト | ■Team Management(※) |
| ■藤野やまなみプロジェクト | ■HTL プロジェクト | ■Team Magazine(※) |
| ■ゆうやけプロジェクト | ■地域にスポーツの楽しさを広めよう! | |
| ■Team Ethical | ■館ヶ丘 YouthBASE | |
| ■Team Fashion | | |

(※) 助成金を受給せず SIC に活動登録のみしているプロジェクト

SIC学生スタッフ



活動の目的

SIC学生スタッフはソーシャルイノベーションセンター(SIC)をフィールドとし、そこで活動している各プロジェクトの連携促進と、SICの学外への周知を目的として活動している。

また、この目的を達成するために、

- ①SICの周知不足
 - ②内外との連携不足
 - ③プロジェクト間の連携促進
- の3つを課題として、アプローチしている。

活動で見込める効果

【所属人数450名・20プロジェクト活動】
今年度のSICは上記のような規模にまで拡大した。これは昨年度から学生スタッフが運営するホームページによる周知の影響も大きいだろう。

また、SICの拡大によりプロジェクト同士の横のつながりが希薄になってきている。そこで我々の活動によって各プロジェクト同士を繋ぎ、SIC全体の連携促進が見込める。

今年度取り組んだ活動

4月 新歓WEEKS

7月 活動地域バスツアー

- ・学生スタッフが実際に各プロジェクトの活動地域へ足を運び、知見を深めた。

8月 オープンキャンパス

8月 JR八王子駅での防災イベント

(ボランティアスタッフさんのお手伝い)

10月 中間報告会

○SICカレンダー

中間報告会で要望を受け、SICに関する動きや活動を月ごとに一覧にしたカレンダーを作成。

○SIC交流会

中間報告会で要望を受け、SICの学生が気軽に参加できる催しを毎月開催

12月 SICクリスマス会

- ・希望者が参加できるクリスマス会を開催

3月 地域交流DAY

- ・設営などの準備、ワークショップを企画(通年を通してホームページやSNSの運営)

活動の成果

今年度はSIC学生スタッフが大きく動いた1年であった。SIC全プロジェクトの所属人数が爆発的に増加したことにより、プロジェクト間の連携促進を大きな課題として捉えた。そこで新しく始めたSICカレンダーとSIC交流会は、これを達成するための大きな一歩になったと考える。また、これらの活動を行うことで他プロジェクトやSIC外の人にとってSICのことはまず学生スタッフに頼ってみよう。という意識を以前より与えられたと感じる。

目標の達成度

今年度の目標達成度は90%である。従来の活動に加えてSICカレンダーや、SIC交流会、SICクリスマス会など当初の想像以上にプロジェクト間へのアプローチが行えた。また、バスツアーで地域に赴くことができた。しかし、ホームページの運営に関して動き出しが遅くなったので改善の余地があると考えている。

今後の課題点

今年度はSICカレンダー・SIC交流会等、プロジェクト間の連携促進のための土台を作ることができた。今後はこれらを元にさらに各プロジェクトに根ざした活動へと幅を広げていきたい。

また、SICの周知に関して、今年度はあまりアプローチできなかったと感じているため、ホームページ運営の基板作りや、ホームページ以外の学外へのアプローチの仕方を模索し、SIC学生スタッフとしての活動の幅と質を向上させていきたいと考えている。



館ヶ丘プロジェクト



活動の目的

本プロジェクトの目的は以下の4点である。

1. **多世代交流の促進**
世代を超えた顔の見える関係を築くことで、地域の孤立を防ぐ。
2. **住民さんの生活の質の向上**
日常の困りごとに学生の視点で寄り添い、住民さんの安心で豊かな暮らしを支える。
3. **地域課題の解決**
高齢化への対応や団地内のアクセス支援など、具体的な地域課題に取り組む。
4. **学生の自己成長**
活動を通じて社会的な「居場所」を見出し、実践的な「自信」を確立する。

活動で見込める効果

- **孤立の解消**
日常的な交流がセーフティネットとなり、高齢者や子育て世代の孤独・孤立を未然に防ぐ。
- **利便性の維持**
団地タクシーやスマホ相談等の継続的な支援により、住民さんの日頃の困難を解消し、生活の質が維持される。
- **学生の成長**
地域貢献の実践や住民さんとの会話を通じ、社会の役に立っているという自信やコミュニケーション能力を備えた人材が育つ。

今年度取り組んだ活動

- 4月 学生カフェ
- 5月 春まつり、新歓
- 6月 学生カフェ、キッチンさくら体験会
- 7月 納涼祭のお手伝い
- 8月 4プロジェクト合同イベント、学生カフェ、お弁当配布
- 9月 防災フェスティバル
- 10月 学生カフェ
- 11月 秋まつり、代替わり
- 12月 学生カフェ
- 1月 学生カフェ、お弁当配布
- 2月 学生カフェ
- 毎月子ども食堂、3プロ、日常的に個人活動を行う

行う予定の活動

- 3月 学生カフェ
- 4月 防災カフェ



活動の成果

1年間を通して個人活動を日常的に実施した。新入生が加入し、より活発な運営体制が整った。また、春まつりでは例年よりも多くの参加者を呼ぶことができるなど、地域コミュニティへの積極的な介入を行った。防災フェスティバルでは、独自に作成した防災マニュアルを用いたワークショップや担架体験等を行い、住民の防災意識向上を図った。秋祭りでは、ブース数を6つに拡大し、団地の賑わい創出に大きく貢献した。祭り内での団地タクシーでは、学生も運行に携わり、延べ58名の子どもたちを運送する等の具体的な成果を挙げた。

目標の達成度

全体として、目標を高い水準で達成している。**多世代交流**については、団地内のイベントでは、参加者の増加やブース増設を通じて大規模な交流を実現した。**生活の質向上**と**地域課題の解決**においても、日常的な個人活動の実施や独自の防災マニュアルを作成・活用するなど、日常生活や防災の面で実効性の高い支援を展開した。これらの活動を通じ、学生が組織運営や責任ある役割を経験したことで、大学以外のコミュニティで社会的な**居場所**と自分が人の役に立っているという**自信を確立**しており、自己成長の面でも大きな成果が得られている。

今後の課題点

学業や他活動との兼ね合いにより、頻繁に参加できるメンバーと、なかなか活動に来られないメンバーとの間で二極化が進んでいる。特定のメンバーに負担が偏るのを防ぐとともに、多忙な学生でも無理なく関われる仕組みづくりが求められる。また、学生カフェや祭りといった全体活動に対し、キッチンさくらや団地タクシーなどの個人活動への継続的な参加が課題となっている。強制するのではなく、ボランティアの理念を尊重しつつ、いかに個々の学生が継続して活動に深く関わり続けられるかが重要である。

@団地

寺田団地活性化プロジェクト



活動の目的

2014年から寺田地域への参画をはじめ、2016年3月、八王子市－UR都市機構－法政大学の三者で「グリーンヒル寺田団地における連携・協力に関する協定」を結び、当年11月にはついにグリーンヒルおひさま広場がオープンした。それからおよそ10年かけて作り上げ、コロナ化を経てもなお存続してきたこのコミュニティスペースを発展させていくとともに、近年課題となっている地域内のつながりの希薄化に対して、学生という利害関係を持たない立場を活かしながら、子どもから高齢者までが自然に交流できる場をつくることで、人と人との直接的な関わりが生まれる地域づくりを目指して活動している。

活動で見込める効果

子どもから高齢者までが同じ空間で時間を共有し、世代を超えた交流が生まれる。学生と地域住民の心理的距離が縮まり、「顔の見える関係性」が築かれる。地域住民の参加意欲が高まり、継続的なコミュニティ形成につながる。

今年度取り組んだ活動

お楽しみDAY

(毎月第3土曜日、年間9回開催)

スマホお悩み相談会

(毎月第2土曜、年間10回開催)

5月 | 八王子学生天国

6月 | 活性化の会・七夕飾りつけ

7月 | お茶会開催 (佐野川コラボ)
活性化の会 流しそうめん

10月 | 寺田学童との学園祭巡り
(法政馬広場コラボ)

11月 | グリーンヒル幼稚園大学交流
Step Outてらだ ブース出店

12月 | クリスマス会運営補助
活性化の会・イルミネーション
飾り付け

3月 | Step Outてらだ (佐野川・しろやまコラボ)

活動の成果

・季節行事やコラボ企画を通じて、地域住民と学生の継続的な関係性を構築し、居場所づくりや交流の機会を安定的に提供することができた。
・StepOutてらだでは、@団地から10名、他プロジェクトから7名の計17名が参加し、団体内外の連携を生み出すとともに、地域の賑わい創出に貢献した。

目標の達成度

季節行事や大学招待企画を通じて、多世代交流の機会を継続的に創出。自治会・UR・他プロジェクトとの連携が進み、協力体制が増加。団地内外の住民に@団地の活動を認知してもらう機会が増加。

今後の課題点

・参加学生が固定化しており、新規メンバーや多様な学生の関与を十分に広げられていない。
・SNS運用においても、発信頻度や内容にばらつきがあり、効果的な広報体制が確立できていない。
・これらに対し、昼休みミーティングを実施し、参加のハードルを下げることで人数の増加と主体的な関わりの促進を図る。



わくわくほうせい！



活動の目的

私たちは多摩キャンパスの施設と地域の自然を活用しながら、多摩キャンパス付近の地域の社会課題を発見し、解決を模索することを目的としています。

具体的な社会課題の一例として以前から取り組み続けている多摩に理科を広める活動、高齢者が多い地域での移動手段の解決などに取り組んでいます。

活動の成果

福生環境フェスティバルとクローバー幼稚園、相原幼稚園では参加した児童が「面白かった、楽しかった」など実験を楽しむことが出来た。また、電動モビリティは運転経験がなくとも林道を通れるほどの走行性能と手軽さが実証された。まためじろ台では今まで全く参加がなかった小学生高学年の参加に成功し、後日その小学校の総合の授業にて小学生同士で実験含むイベントを実施した。

活動で見込める効果

活動に大学の設備や自然を利用することによって、多摩キャンパスの魅力や信頼を築くのと同時に、社会課題の解決に助力することができると考えています。また、児童向けの実験イベントなどで将来、理科を学びたい、多摩キャンパスで学びたいなどの動機付けを与えることができると考えています。

目標の達成度

幼稚園へのイベントで多摩キャンパスの設備と自然を伝え、電動モビリティを高齢者の移動手段に活用する可能性、そしてめじろ台の小学生が自主的にわくわくほうせい！の活動に影響を受けて、地域活動の勉強を行うなどの実績から、目標を達成できたと考えている。

今年度取り組んだ活動

5月

・福生環境フェスティバルに化学実験ショー出演者として依頼を受けて実施

8月

・高低差のある地域での電動モビリティの運転性能の確認を実際の林道（桐生）にて実施&他フィールドワークを実施
・めじろ台団地にて、夏休みを迎えた小学生の自由研究をサポートする理科実験教室を依頼され、実行した。今まで参加がなかった小学生高学年を新たなターゲットにして活動

11月

・クローバー幼稚園の児童を多摩キャンパスの実験棟に招待し、体験型の実験教室・ショーを実施した。

1月

・あいほら幼稚園にて上記と同じく実験教室・ショーを実施した。

今後の課題点

今年度の始めの頃に発生した引継ぎが未完成であるが故のミスコミュニケーションが起こらない様、何年も継続できる団体となるようノウハウや実験を残すこと、また幅広い学生がわくわくほうせい！に参加し、活動の幅や発想を増やすべく、SNSなどで広報を行うことが課題であると考えます。



佐野川プロジェクト



活動の目的

佐野川地域は2009年に「にほんの里100選」に選ばれる自然豊かな地域である。しかし近年、過疎化・高齢化に伴う農業従事者の減少により耕作放棄地が拡大し、害獣被害・景観悪化・農業生産性の低下など、地域全体に深刻な影響が生じている。

私たちは、放棄された茶畑の改善と再発防止を図り、将来にわたり耕作放棄地を生まない「持続可能な循環型システム」の構築を目的に活動している。

活動で見込める効果

佐野川の人口は、活動初年度の2014年から現在まで192名減少し、現在660名となっている。しかし学生の参加人数は増加し、今年度は延べ100名が現地を訪問し、地域農家の方々から農業指導を受ける中で整備活動・交流を行った。地域に外部から継続的に人が入ることで、・担い手不足の補完・地域コミュニティの維持・若者が地域に関わる機会・関係人口の創出といった効果が生まれている。

今年度取り組んだ活動

- 4月お茶ピク
- 5月茶畑整備・収穫
- 6月さのさんぽ・茶畑整備
- 7月@団地コラボ・さがチャレ・茶畑整備
- 8月茶畑整備
- 9月館ヶ丘団地 防災フェスティバル
- 10月さがみはら親子ふれあい広場/長野 農業交流合宿/多摩祭 /西八王子ハロウィンイベント/藤野ふるさと祭り
- 11月整備/まちのスコール（城西大学）/相模原SDGs EXPO
町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！/農業まつり
- 12月都市政策セミナー（市ヶ谷キャンパス）
- 2月ジェイコム出演
- 3月整備/さがみはら学生祭/百草団地

活動の成果

約12年の継続により、放棄されていた茶畑から収穫できるほどの品質へと再生した。

商品開発初年度:畑の約1/3のみ収穫可能
2025年度現状:継続整備で収穫範囲が拡大
今年度は12イベントに出店し、282袋すべての完売見込みが立っている。
相模原市の助成金を取得したことで、新たに4つ市内のイベントに出展できた。
さらに、神奈川県J:COM番組に出演する機会を得るなど佐野川のお茶という地域資源を周知することができた。

目標の達成度

市ヶ谷キャンパスで都市政策セミナーにて試飲会とPRの機会をいただけたことで、市ヶ谷キャンパスとのつながりの足がかりができた。

今後の課題点

2026年度には茶畑の2/3を収穫可能にする体制整備を目標としている。
さらに、品質向上と生産量の増加に合わせ、販売活動を地域内外に拡大させる。来年度は約400袋の生産・販売体制を整えたいと考えている。
イベントでの一回きりの関係から、この取り組みをより認知してもらうためにもリピーターに繋げていきたい。イベントの臨時出店だけでなく、継続的な販路を模索する。



藤野やまなみプロジェクト



活動の目的

藤野やまなみプロジェクトは、やまなみ公園の整備や芝桜の植樹等の活動を通じて、豊かな自然と美しい景観を保全し、将来にわたって地域の方々に親しまれる公園を維持することを目的としています。

活動で見込める効果

本プロジェクトを通じて、藤野の豊かな自然環境が保全されるほか、地域の方々と学生が協力して公園の整備を行うことで、大学と地域のつながりが深まり、世代を超えた交流が生まれることが期待されます。また、活動を通して公園の愛着が高まることから、地域により親しまれる公園づくりに繋がることが見込まれます。

今年度取り組んだ活動

- 4月：新歓・芝桜の植樹
- 5月：公園整備・峰山整備（お祭り）
- 6月 7月：公園整備
- 8月：公園整備・たまぼら4PJ合同イベント
- 9月：公園整備
- 10月：公園整備・藤野ふる里祭り
- 11月：公園整備・
安川さん講演会@やまなみ温泉
- 12月：安川さん講演会@館ヶ丘団地
- 2月：広報誌作成

今年度は通常活動に加えて、たまぼら4PJ合同イベントや、藤野ふる里まつりへの参加、館ヶ丘団地での安川さんの講演会開催など、多くのプロジェクトとのコラボレーションが実現しました。他のプロジェクトとの繋がりが生まれたことで、昨年度よりも活動の幅が広がった一年となりました。

活動の成果

今年度も芝桜の植樹や定期的な公園の整備を継続的に行い、春には芝桜、夏にはアナベルが咲き誇る景観を実現しました。これにより、地域の方々に親しまれる公園づくりに貢献することができました。

また、これまでSICの学生カフェで実施していた安川さんの講演会を、やまなみ温泉および館ヶ丘団地で開催したことで、学生に加えて地域住民の方々にも環境について考える機会を広げることができました。

目標の達成度

今年度は、年間を通して通常活動への参加人数が安定しており、昨年度よりも活発に活動ができました。継続的な参加体制を維持できたことから、活動の基盤づくりという目標は達成できたといえます。また、藤野ふる里まつりへの参加を通して、創生会の方々との協働や地域住民との交流を深めることができ、藤野地域の魅力を再発見する機会となりました。学生と地域のつながりを強化するという点においても、目標は達成できたと考えられます。

今後の課題点

今年度は、幹部内での情報共有に偏り、全体への伝達が十分でない場面がありました。今後は、定期的なミーティングやグループLINEの活用を通して組織としての連携を強化していきたいです。また、プロジェクトを継続のために新規メンバーの確保が課題です。新歓やSNSを活用し、本プロジェクトの魅力を積極的に発信していきます。



ゆうやけプロジェクト



活動の目的

ゆうやけプロジェクトは、町田市相原地区において、放課後支援や季節ごとのイベントを通して、小学生を中心とする子どもたちと交流を行っています。

ゆうやけプロジェクトでは、子どもたちの生活の充実を目的としています。目的達成のため、放課後の学童である「ゆくとも」という活動に参加したり、休日に「りびんぐ」というイベントを開催して、子どもや地域の方々との交流を行ったりしています。

活動で見込める効果

フィールドが抱える課題として、子どもの居場所の不足と、地域コミュニティの希薄化が挙げられます。

ゆくともやりびんぐといった活動を通し、子どもや地域スタッフの方々と継続的に関わっていくことで、子どもたちの居場所づくりに取り組んでいます。

また、子ども会や子どもセンターといった大戸小学校以外の方々と関わる活動も行い、交流を深めることで、地域コミュニティの希薄化の改善を目指しています。

今年度取り組んだ活動

- 5月 りびんぐ（調理）
- 6月 しゅわしゅわパーティー参加
- 8月 りびんぐ（4プロジェクト合同）
- 9月 ハロウィンイベント参加
- 12月 りびんぐ（工作）
ふれあい企画参加

2月にもりびんぐの開催を予定していましたが、積雪により3月へ延期となりました。

「しゅわしゅわパーティー」は、ちゅらたまさん主催のイベントで、子どもたちと手話を学んだり、手話で遊んだりする活動です。

ハロウィンイベントは、丸山子ども会さん主催のイベントで、子どもたちと町内を歩き、地域の方々と交流する活動でした。

ふれあい企画では、法政馬広場さんのお手伝いを行いました。

その他、平日は放課後支援であるゆくともの活動も行っています。

活動の成果

本年度は、昨年度と比較して、りびんぐへの子どもの参加希望者数を増やすことができました。この理由として、8月に実施した4プロジェクト合同企画の開催があると考えられます。この企画では、たまぼらの他のプロジェクトの方々とともに開催したことで、規模の大きいイベントを実施することができました。これにより、12月や2月のりびんぐにおいても、継続的な参加希望に繋がったのではないかと考えています。

目標の達成度

子どもの生活の充実という目標達成のため、りびんぐの企画内容の多様化や、振り返りの反映を行いました。企画の種類が連続することがないよう心掛けたり、各回の振り返りを次回企画へ反映させるように改めて意識したりしたことで、さまざまな体験機会を提供することができ、目標達成に近づいたと考えています。

今後の課題点

大学生の人数の確保が課題です。本年度のりびんぐでは、小学生の参加希望者が増加した一方で、大学生の人数は例年同様年度末にかけて減少傾向にあります。その結果、参加者を絞るために抽選を行うこともありました。また、イベント参加のお声がけをいただいた際にも、参加できる人数が集まらず、参加を見送らせていただくことがありました。

来年度は、継続的な活動について模索し、活動に参加することのできる大学生の定着を目指していきたいと考えています。



ホーセイイノベーションクラブ

Team Ethical



活動の目的

今年度の活動は、コロナ禍を経て顕著となった「学生の孤食化」と「栄養の偏り」の改善を目的として実施した。また、「多摩キャンパスならではの魅力」を発見・発信することを目指し、町田市や相模原市の食材を使用するとともに、八王子を拠点とする団体との提携企画を実施した。これらを通して、学生が多摩地域の魅力に触れ、関心を深める機会を作り、学生と多摩地域の双方を豊かにすることを目標とした。

活動で見込める効果

本活動を通じて、「学生の孤食」や「栄養の偏り」といった課題の改善が期待される。キャンパス内における「食」に関する交流会や、栄養バランスの良い食事を提供する場を増やすことで、孤食化の改善に加え、学生一人ひとりの健康的な食生活への意識向上が見込まれる。さらに、多摩地域の食材を活用することで、新鮮な地元食材を味わう機会を作るとともに、地域住民の方々との交流を通して、都市部のキャンパスでは得られない「多摩キャンパスならではの魅力」を再確認する機会となることが期待される。

今年度取り組んだ活動

今年度の活動では、例年多摩キャンパスで開催されている「多摩夏祭り」や「多摩祭」への参加だけでなく、Ethical独自のイベントも企画・開催した。多摩キャンパス内の「スローワールドカフェ」さんや町田市農業協同組合「アグリハウスさかい」さんの協力のもと、12/10から12/13の4日間で100円で朝食を提供する「100円モーニング」を開催した。その前週には、「たまばら佐野川プロジェクト」との共同で、企画の広報活動として抹茶ラテを販売した。また、「BASEL洋菓子店」さんの協力を得て、地元の野菜を使用したオリジナルベーグルをキャンパス内で販売した。さらに、EthicalのInstagram公式アカウントでの投稿および食堂でのポスター掲載を通じて実施した「ベストワングルメ」では、めじろ台駅・西八王子駅・相原駅周辺の飲食店を訪問し、大学周辺地域の魅力を再発見する活動に取り組んだ。

活動の成果

「100円モーニング」やベーグルの販売などの学内での食事企画では、学生に栄養バランスの取れた食事を提供し、地域への関心を促進する効果があった。学内で実施することで学生の孤食を解消し、新たな交流機会を作るといった効果もあっただろう。また、企画を通じて各団体の学内での知名度を向上させられた。さまざまな団体と共同でイベントを実施することで地域交流やSIC内のつながりも強化することができただろう。

目標の達成度

本活動では、学生の孤食化の改善および多摩キャンパスの魅力発信を目標としていた。100円モーニングなどの実施により、学生が朝食を共にする機会を得ることができ、交流の場を生み出すことができた。この取組みが評価され「実践知大賞」後援会賞を受賞した。また、地元食材を活用した企画や地域団体との連携を通して、多摩地域の魅力を発信することができた。おおむね目標は達成できたものの、企画の多くが短期間で実施され、継続性という点では課題が残った。

今後の課題点

今年度の活動を通して、地域と学生の交流の機会が十分ではない現状が見受けられた。今後は、学内にとどまらず、地域と連携した企画をより積極的に立案し、地域食材の活用を一層推進していきたいと考える。また、イベント実施時の広報活動を強化し、参加者や企画規模の拡大を図ることが今後の課題である。



ホーセイノベーシヨソクラブ

Team Fashion



活動の目的

一私たちTeam Fashionは、「多摩キャンパスで自己表現する場を作りたい」、「ただ単位を取るだけの大学生は嫌だ」そんなモヤモヤを持ったメンバーが集まり、2022年に設立されたチームです。「ファッションを楽しみ、自己表現する場を」をキャッチコピーに法政大学多摩キャンパスや多摩地域に自由にファッションを楽しみ、自己表現できる環境を作る活動をしています。私たちは、現在、一年生8人、二年生7人、三年生3人、四年生2人の計20人で活動しています。今までの活動を通じて生まれた緑が広がり、現在では多摩キャンパスだけにとどまらず、東京都八王子めじろ台地域でも行っています。

活動で見込める効果

「地域・年齢を超えてファッションで繋がる」ことが主な効果です。

七夕イベントやハロウィンイベントでは、イベントに合わせたゲームや物販、さらに仮装をし、めじろ台の子供や地域の方々と交流することができます。

11月に行われた多摩祭では、ヘナタトゥーやハンドメイドを行い、多摩キャンパスの生徒だけでなく、他大学の学生や様々な方々と交流できます。

ファッションショーでは、自分たちが古着から作った衣装を通じて、ランウェイを歩いてくれる地元の方と交流することができます。

このようにファッションを通じて様々な人と繋がることが私たちの活動で見込める効果です。

今年度取り組んだ活動

2025年度は「地域・年齢を超えてファッションで繋がる」をテーマとした多くのイベントを開催しました。

4月に新入生歓迎イベントに行い、夏頃は、多摩キャンパス主催の多摩夏、めじろ台の七夕イベントなどを行いました。

秋頃は、「リンカスナップ」さんとコラボし多摩キャンパスでストリートスナップの撮影を行い、インスタのフォロワーを300人以上獲得しました。他にも多摩祭や館ヶ丘プロジェクトさん主催の防災フェスティバルにも出店しました。

また、引き続きめじろ台にてハロウィンイベントを開催し、子どもたちが楽しめるイベントを行いました。

冬頃には、活動の集大成である「ファッションショー」を開催しました。「八王子クールセンター」さんからいただいた古着をアレンジし、その衣装を着た学生や地域の方がモデルとしてランウェイを歩きました。そしてファッションショーをクールセンターさんでも行いました。

活動の成果

9月のスナップ撮影を行い、フォロワーを増やすことで私たちの活動が多くの人の目に入るようになり、多摩祭でもたくさんのお客さんが来てくださり、様々な交流が行えました。

11月のファッションショーでは、佐野川プロジェクトさんの「佐野川茶」の販売や、他チームの方々がイベントを盛り上げるために協力してくれました。協力のもと、地域・年齢を問わず、50人以上の観客を集めることができました。

以上の成果から本年度のテーマを実現できました。

目標の達成度

今年度は、地域交流をたくさん行い、地域を超えた活動ができたと思います。

さらに、SNS活動を行うことで、たくさんの方が見てくれTeam Fashionの知名度が向上されました。

多摩キャンパスの活動地域だけでなく、他地域やSNS上で活動することができ目標達成できました。

今後の課題点

毎回のミーティングやイベントの参加率が低いため準備やイベント当日に人員が足りず、一部のメンバーに仕事が集中してしまうことが課題点です。そのため、来年度はメンバー全員が参加しやすいミーティング日時に調整する。さらに、イベントの事前にメンバーそれぞれの役割を決め、仕事を配分することを目標にし改善していきます。



ホーセイイノベーションクラブ Team Circulation



活動の目的

①学生の居場所と交流の場づくり。
学生が孤立することなく、互いに支え合いながら学びや成長を深められるコミュニティの形成。

②多摩キャンパスにおける自分のイノベーションの循環。
学生が新しいことに挑戦したり、自分の可能性を広げたりする経験をして、それを次の挑戦や成長へと繋げる流れを作る。

活動で見込める効果

学生同士や地域との交流の機会が増えることで、学生が孤立せず安心して過ごせる環境が生まれる。また、イベントや企画を通して自分の「好き」や「やりたい」に気づくきっかけが生まれ、学生が主体的に挑戦する機会が増える。さらに、その経験や挑戦が他の学生にも影響を与え、新しい挑戦や成長へとつながる循環が生まれることが期待される。

今年度取り組んだ活動

・映画上映会
「ズートピア」を通じて、多様な価値観や違いについて考えるきっかけをつくる。

・ペットボトルロケット
学生のリサイクル意識や環境への関心を高め、ゴミ削減への貢献を目指す。

・佐野川茶コラボ
マイボトル推進・給水機能認知向上を目的に実施。

・カラオケ
学生が主体的に楽しめる活動を通じて、自然な交流のきっかけをつくる。

・多摩祭（ライブペインティング）
芸術を通して場の雰囲気活性化し、自然な交流や会話を生むきっかけや新たな価値を発見する体験を提供。

活動の成果

学生が自分の価値観や感覚に気づき、多様性を受け入れる視点を育んだ。
また、学生同士の交流が少ない多摩キャンパスの中で音楽や創作を通して、交流の機会を増やすことができた。
多摩キャンパスの空間を生かした活動をすることができ、学びや気づきのある体験を多く提供することができ、どの活動も来場者を満足させることができた。

目標の達成度

映画上映会やペットボトルロケットのイベントは、参加者・関心ともに目標を達成。カラオケや他の企画は関心を持つ者はいたが、実際の参加は少なく、改善が必要。
活動ごとに差はあるが、全体として学生の主体性や交流は成果があった。

今後の課題点

参加率を上げるためにSNS運用やポスター掲示などで活動を知らせる。

十分な準備期間を確保し、計画的に取り組むことで、よりスムーズな運営を目指す。
メンバー間の連携を強化し、情報共有や報連相を徹底することで、負担の偏りを減らす。



しろやまふれんず



活動の目的

多世代交流の機会が減少している城山地域において、その交流機会を創出することを目的として活動している
また、城山地域での活動を通して実際に体感した地域の様々な魅力を、我々が持つ若者ならではの視点で発信していくことを目指している

活動地域：相模原市城山地域
所属人数：67名

活動で見込める効果

1.多世代交流の促進

地域のお年寄りや子どもたちとの交流機会を設けることで、地域全体のつながりを強化できる

2.地域の活性化

地域の魅力を発信することで、より多くの人に城山地域の良さを知ってもらうことができ、地域全体の活性化に繋がる

3.若者の社旗貢献意識の向上

多様な世代にわたる交流を通して、自らの視野を広げることができ、社会問題に対する意識の向上や、新たな発見が得られる

今年度取り組んだ活動

- 5月～7月 広田小学校訪問(継続)、運動会参加
玉ねぎの栽培、収穫
はじまり食堂ミーティング
夏祭り準備(出店者募集、選出、出店者向け説明会、チラシ仕分けなど)
- 6/4 カワラノギクを守る会ミーティング
- 6/7 梅もぎ
- 6/8 e-bikeサイクリングツアー(ガイド参加、アシスタント参加)
- 6/29,7/13 梅ジャムのレシピ作り・ラベル作成
- 7月 夏祭り出店準備(資材購入等)
- 7/4 玉ねぎのスローワールドカフェへの寄付
- 7/6 城山公民館子ども縁日(出店参加)
- 7/26 久保沢納涼大会(出店参加)
- 8/3 高尾山観光ルート開発(城山湖まで)
- 8/11 みんなの津久井湖夏祭り(設営、出店者誘導、かき氷の出店)
- 8/16 小倉橋灯籠流し(設営、かき氷の出店)
- 9月 モルック大会&BBQ(運営参加)
- 10月 高齢者サッカー観戦のお手伝い

もみじ祭りの参加

e-bikeサイクリングツアー(アシスタント)
コスモス園(コスモスの管理手伝い)

11月 はじまり食堂第1回(子ども食堂)
つくい湖上祭(出店参加・設営)
モルック大会(運営参加)

12月 はじまり食堂第2回
サンタdeコンサート(主催イベント、広田小学校)

活動の成果

今年度は梅ジャムや夏祭り出店等の多岐にわたる地域貢献活動を行いつつ、「はじまり食堂」といった新たなプロジェクトを発進させることもできた

活動全体を通して地域のつながりをより強固なものにし、地域活性化に貢献することができた

目標の達成度

多世代交流の機会を創出するという点においては「はじまり食堂」や「サンタdeコンサート」、その他地域イベントの参加を通してある程度達成できたと言える
しかし城山地域の魅力を発信するという点においては、梅ジャムのレシピ発信等を試みたが十分な成果をあげられなかった

今後の課題点

- ①活動メンバーの固定化と人手不足
⇒団体内の交流機会を増やす
- ②一部プロジェクトの取り組み状況が不透明
⇒団体内での情報伝達手段の検討
- ③地域の魅力発信力の不足
⇒SNS等の情報発信方法の工夫・考案



法政馬広場



活動の目的

法政馬広場は、地域の子どもたちへ馬と触れ合う機会を提供し、子どもに新鮮な学びを提供したり、豊かな情緒の形成を支援したりすることを目的に発足した。併せて、活動を通じて人と馬がどちらもウェルビーイングを向上させられることをプロジェクトの理念としている。

当プロジェクトでは、「言葉のいらぬふれあい」をキャッチコピーに、地域の子どもたちを対象とした定期的な馬とのふれあい企画を開催することを目指している。企画では子どもたちに新鮮な体験活動を与えるだけでなく、経験を培い人間関係を豊かにするなど子どもたちの精神的な成長に関与することを目標としている。

活動で見込める効果

法政馬広場での活動を通じて、子どもたち、地域社会、馬を取り巻く環境にポジティブな影響を与えられると考えている。まず、子どもたちは普段経験することの少ない馬との触れ合いを通じて新たな興味・関心を育むことができ、地域の小学校や学童の子どもたちを大学に招いて交流することで、大学と地域社会とのつながりを高めることが期待できる。そして、既存の乗馬クラブなどの枠組みにとらわれない活動を展開することで、馬が活躍する場がさらに広がることを見込まれるさらに、「人馬のウェルビーイング研究所」との連携を深め、活動やその評価に学術的な視点を取り入れていくことを目指している。

今年度取り組んだ活動

【ユニフォーム・ステッカーづくり】

法政馬広場のオリジナルユニフォームを制作した。ふれあい企画の際に着用し、スタッフとしての識別性を高め、チームとしての一体感が生まれた。また、企画に参加した子どもに配布する馬のステッカーを作成した。子どもの楽しみになり、より身近に感じてもらうことができる。

【ポニー研修】

6月からは、馬術部で飼育されているポニーの水洗いや蹄の手入れ、散歩の仕方、馬房の掃除などを学んだ。研修を通して、馬との関わり方を知り、信頼関係を築くことができた。

【ふれあい企画】

10月に「@団地」と連携し、学童の児童を対象にしたふれあい企画を実施した。馬場での馬とのふれあいだけでなく、一緒に多摩祭に参加し、子どもたちのより高い満足度が得られた。この経験は、今後の活動に活かすことができる。また、11、12月には3回の継続的なふれあい企画を実施した。これまでの企画で連携してきた多摩キャンパス近郊の小学校や学童から参加者を募集した。えさやりや毛の手入れだけでなく、最終日には乗馬体験を行い、馬との関わりを深めてもらうことができた。

活動の成果

今年度は、ユニフォーム・ステッカーづくりやポニー研修を行い、活動の基盤を整えることができた。ユニフォームを着用することが活動時の一体感をうみ、研修実施により馬の扱い方などメンバーのスキルが向上した。

10月の連携企画や、12月の連続ふれあい企画を実施し、馬のえさやり、ブラッシングなど具体的な活動の経験を積み、さらに連携先との関係づくりができた。一時的なものだけでなく、継続的な活動の基盤を整えることができた。

目標の達成度

ふれあい企画では、子どもたちが笑顔で馬に触れたり、積極的に質問したりする姿が見られ、楽しんでもらえた手応えを感じた。最初は馬を怖がっていた子どもも、活動を通じて徐々に距離を縮め、最後には自分から触れるようになるなど、子どもたちが楽しみながら新しい経験をえられる場となった。

一方で、人と馬双方のウェルビーイング向上を理念としているが、今年度は子どもたちへの活動提供と組織基盤の整備に注力したため、馬のウェルビーイングに関する取り組みは十分とは言えなかった。

今後の課題点

馬のウェルビーイングについては、ポニー研修などを行ったものの、馬にとってのストレス軽減や心身の豊かさを高める取り組みまでは至らなかった。次年度以降の重要課題として認識している。

また、研修の方法をポニー公園で行うものから馬術部の敷地を利用したものに変更したものの、想定通りに運営できず、前年度のような全員参加の必須研修ではなく任意参加の形となってしまった。研修方法を変更する際に、それに伴う運営体制の見直しや、予算の他用途への再配分を事前に検討すべきだった。結果として当初計画していた研修の質を十分に確保できなかった点は、次年度への重要な改善課題である。



若葉台プロジェクト



活動の目的

若葉台住宅は、相模原市郊外のベッドタウンとして、高齢化と次世代への継承の困難による空き家化の課題を持つ。また、地域イベントでは、参加世代が固定化し、世代間交流が活発ではない状況にある。若葉台プロジェクトは学生ならではの発想力と行動力を活かし、「若葉台ふるさと計画」の一環として子どもを対象にした企画や多世代が参加できる企画を実施し、希薄になっている世代間交流の活性化を目的としている。学生が高齢者・現役世代・子どもを繋ぐ架け橋となり、世代を超えた交流を促進することで、持続可能なコミュニティ形成を目指している。

活動で見込める効果

①多世代交流の促進

入居第一世代や現役世代、そして子ども世代を対象にイベントなどを開催することで、世代間のつながりを創出できる。学生が媒介することで、交流の機会を広げ、多世代交流活性化の架け橋としての役割を果たすことが出来る。

②地域課題の解決

若葉台の地域課題解決案の一つとして掲げる、若葉台住宅に住み続けたいと思えるようなまちづくりを目指す「若葉台ふるさと計画」によって、新たな地域活動の担い手の発掘に貢献できる。

今年度取り組んだ活動

- 4月 自治会総会参加
- 5月 城山モルック大会 運営補助
- 7月 納涼祭 出店・運営補助
相模原市長とのランチ会
- 8月 城山夏祭り 運営補助
- 9月 『若葉台遊びフェスタ2025』開催
- 11月 芋煮会 運営補助
城山モルック大会 運営補助
- 12月 『現役世代交流会』開催
- 2月 『若葉台遊びフェスタ2026春』開催

【通年】

コミュニティカフェYYわかば 運営補助
ワーキンググループ会議への参加

活動の成果

納涼祭での出店やコミュニティカフェの運営補助を通して若葉台プロジェクトの活動はより広く認知されるようになった。9月には初の子どもを対象としたイベント『若葉台遊びフェスタ2025』を実施し、子ども18人、保護者10人の参加者を集めることに成功した。12月には『現役世代交流会』を行い、これまで関りの少なかった世代と意見交換を行うことが出来た。2月にはそれらの三世代をつなぐことを目的とし『若葉台遊びフェスタ2026春』を実施した。これらの活動を通して新たな参加者との交流を生み出すとともに、イベントの周知などに協力してもらえるネットワークの拡大など、さらなる多世代交流の実現に向けた基盤をつくることができた。

目標の達成度

本年度は、子どもや高齢者に加えて、子どもたちの親世代とも交流が生まれ、昨年度を上回る多世代交流の場を創出することができた。また、昨年度から継続して地域課題を協議するワーキンググループに参加することで、若葉台が抱える課題をより具体的に理解し、地域との関係性を一層深めることができた。以上より、設定した目標は概ね達成されたといえるが、企画内容や広報の方法などに少し課題が残った。

今後の課題点

①イベント広報の方法

効果的な集客を実現する広報の方法の確立が課題。YYわかばでの口コミや自治会協力の回覧以外でSNS活用を含めた発信方法の工夫が必要である。

②企画内容の工夫

子どもから高齢者までが参加しやすい企画づくりが課題。多世代のニーズを的確に把握し、意見を取り入れながら企画を改善することが必要である。

③地域課題に対する向き合い方

具体的な課題解決と交流促進の二軸のバランスを取りながら、学生の強みを活かした課題解決方法を探る。



あつまれ緑区プロジェクト



活動の目的

相模原市緑区の区政策課より依頼を受けた区内のPR活動。メンバーが現地へ行き、取材をして、それらを主にプロジェクトのSNSや市のホームページ、広報誌などの紙媒体を通じてPRしていく。

PRのターゲットは、若い世代や子育て世代をメインに絞り、SNSのInstagramやTiktok、市のHPなどを活用して幅広い世代にも知ってもらえるよう工夫していく。

また、緑区内で活動しているプロジェクトの連携、周知も行っていきたい。

活動で見込める効果

メディアを通じた情報発信でより多くの人に自分たちの活動や区の魅力を知ってもらうことで、定住促進や観光への効果が見込める。

さらに学生目線のSNS投稿によって気軽に区のことを知ってもらう。

緑区内で活動するSICの他プロジェクトの活動取材し、広めるなど、他プロジェクトと連携することでSICのつながりを強める。

今年度取り組んだ活動

主に緑区内の様々な魅力について多くの人に知っていただくため、Instagramや、tiktokなどの投稿を重視してきました。また、SIC内のほかに緑区で活動しているグループの取材などSIC内の繋がりも深めてまいりました。

- 4月 おおさわ桜祭り
- 5月 緑区内のカフェやレストランなどの投稿
- 6月 城山e-bike体験ツアー
- 7月 カフェやレストランなどの投稿
- 8月 みんなの津久井湖 夏祭り2025
小倉橋灯ろう流し
城山夏まつり2025
相模湖湖上花火大会
- 9月 藤野芸術の家
- 10月 津久井やまびこ祭り
城山もみじまつり
- 11月 小原宿本陣祭
カフェ取材
- 12月 さがみ湖イルミオン

活動の成果

いいねの数が二桁に到達し、また、再生回数なども安定してとれるようになってきている。また、緑区内のイベントだけでなく、緑区内のおしゃれなカフェやレストランの紹介をすることにより、30~40代の家族連れのみをターゲットとせず、10~20代を中心とした若者層にも見てもらえるように工夫をした。実際、30~40代の方々に見ていただけているので、家族で楽しめるようなイベントを紹介することは再生回数にも身を結んでいると思うので、この成果をもとに次年度の引き続き取り組んでまいりたい。

目標の達成度

今年度はインスタ投稿（リール動画含む）は地域に住む30~40代の方々の視聴率が高い結果となった。そのため目標の一つであった子育て世代へのリーチは達成していた。一方で学生（18~20代前半）への視聴は投稿ごとに差があった。

今後の課題点

学生へのリーチ不足が課題である。そのため再度現在の若年層の傾向を分析した上で、関心がある情報および媒体でPR活動を行っていききたい。特に法政大学多摩キャンパスの学生にはこれまでのSNSのみならず、あらゆる選択肢を考え議論していく必要があると考える。

行政ともより情報交換等を、昨年よりさらに綿密に行いながら、進めていきたい。

また他プロジェクトとも連携を行い、今後取材・参加など包括的な取り組みもしていききたい。



HTLプロジェクト



活動の目的

食品ロス問題と生活困窮者支援を同時に解決できる仕組みづくり。

具体的にはコンビニや飲食店の販売期限切れの廃棄商品(消費期限の近い食材)を路上生活者などの生活困窮者に配布したいと考えている。

ボランティア活動への参加や情報収集によって、貧困という大きな社会問題についてメンバー各々が知識を得ることで、より深く自分の考えを持つようになるのではないかと考える。それを通して、自分たちにできる、また自分たちだからこそできる支援の方法を探っていきたい。

また、学生の貧困問題に目を向け、学生だからこそできる学生への手助けを提案したい。

活動で見込める効果

食品ロス問題へのアプローチ

- 運搬焼却時のCO2削減
- 埋め立て時のメタンガス削減
- 生産流通時のコスト削減

貧困問題へのアプローチ

- 生活困窮者への生活支援



今年度取り組んだ活動

5月

- メンバー集め
- 役職決め
- 方針決め
- プロジェクト参加(はらぺこあおむし - ミライ大作戦2025)
- スープの会参加

6月

- フードドライブイベント開催
- プロジェクト参加(SIVA はらぺこあおむし - 食品ロス削減フェスティバル)

7月

- こども食堂せかい様へ食品提供
- アンケート集計

10月

- プロジェクト参加(相模原市 - さがみはら大学生等未来応援事業)
- プロジェクト別チーム編成

12月

- 朝ごはん企画開催

活動の成果

SIC内他プロジェクトや外部団体と協力し、目的に掲げる食品ロス問題と生活困窮者支援に貢献できた。

キャンパス内で2度イベントを開催し、こども食堂への食材寄付と大学生の欠食改善を実現した。イベント前のミーティングを活発に行い、綿密な準備を経たことがスムーズな運営に繋がった。

一年を通し、情報共有が盛んに行われ、学生としてのつながりやフットワークを生かした活動となった。

目標の達成度

6月のフードドライブイベントにおいてアンケート調査を実施した。これにより、メンバーが貧困問題とその現状について考えを深め、学生から学生への貧困支援の方針を定め、12月の朝ごはん企画開催に繋げることができた。

目的に掲げた「食品ロス問題と生活困窮者支援を同時に解決できる仕組みづくり」という理想を軸に据え、アイデアはほぼ全て実行できたとと言える活動内容であった。

今後の課題点

発足2年目であるためメンバーが少なく、また参加率も低い。リモートミーティング環境の整備や議事録の共有等の工夫やチーム編成による少人数でもプロジェクトを動かすシステム構築などを行ったが、未だ運営に足りうる最低限度の人手確保に苦心している。これは昨年も課題として述べたことであり、解決策もおおむね実行できていたが、さらなる改革が求められる。

イベント開催に向け熟議を重ねられたため、今後は経験を活かす段階へ進み、今年度以上の開催頻度にできるのではないかと考えられる。



地域にスポーツの楽しさを広めよう！



SIC
Social Innovation Center

活動の目的

法政大学体育会サッカー部は、一昨年に関東大学サッカーリーグ2部降格を経験しました。弊社の中で原因分析を行い、ピッチ内だけでなく、ピッチ外の取り組みを活性化させる必要があり、昨年SICプロジェクトに参加をしました。チームの目標である「法政に関わるすべての人を笑顔に」という目標を達成するため、地域の方々と協働させていただきながら、様々な取り組みをしています。これまでに、小学校や地域のイベントでサッカー教室を行ってきました。今年度からは行政と協働した観戦ツアーの企画や試合日の魅力度向上に取り組んでいます。

活動で見込める効果

- ・法政大学体育会サッカー部と地域社会（小学校や行政）とのスポーツを通じた関わりが持てる。

- ・弊部の認知度向上とともに、地域の方の運動習慣の形成と新たなコミュニティ創出に寄与。

- ・様々な組織の方と協働し、弊社と他PJにとってのモデルケースを作る。

今年度取り組んだ活動

- 試合日イベントの実施
 - ・マッチデープログラム作成
 - ・会場のライトアップ
 - ・エスコートキッズの募集
 - ・SNSでの試合周知

○観戦ツアー

- ・高齢者観戦ツアー

(八王子市高齢者いきいき課、あんしん相談センター館、はちまるサポート)

- ・学生観戦ツアー

○周知活動

- ・チラシ・ステッカーの作成、配布

活動の成果

今年度からの試みであった行政と協働した高齢者観戦ツアーは、29名の方が参加してくださりました。全体としても2025シーズン最多入場者数を記録しました。

学生向けの観戦ツアーでも、試合が平日の夜にもかかわらず、多くの多摩キャンパスの学生に参加いただくことができました。

目標の達成度

新たな取り組みの結果として、高齢者など今まで関わりを持てていなかった地域の方との交流を創出できました。一方、活動頻度に関しては課題が残る部分であり、目標達成に向けて来年度は交流機会を増やしていく必要があると考えています。

今後の課題点

目標の達成度にも挙げたように、活動頻度に偏りがあり、年間を通しての活動が十分にできなかったため、来年度からは試合のスケジュールなども含め、より計画的に活動を進めていきたいと考えています。

また、PJ内のメンバーが部員だけでなく、ボランティアとして参加してくれている方たちにも協力していただけるような体制を作っていきたいと考えています。



館ヶ丘YOUTHBASE



活動の目的

・空き店舗を利用した店舗運営
館ヶ丘商店街にある空き店舗を利用し、カフェの運営をすることで商店街に活気を与える。

・若者の居場所作り
若者が集まるコミュニティを作ること
館ヶ丘団地に活気を与える。

・学生の活動拠点
学生が常に団地にいる状況を作ること
団地の生活に溶け込む。

活動で見込める効果

・多世代交流の促進
学生が介入することで、イベントによる一時的な多世代交流だけでなく継続的な関わりを持ち続けられる。

・商店街の活性化
シャッター街となっている商店街に店舗を開けることで、昔のような活気をもたらす。

若者が常にいる場所があることが新たなチャンスやきっかけを生む

今年度取り組んだ活動

「空き店舗利用に向けた取り組み」
・独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)との打ち合わせ。
・公営財団法人キリン福祉財団との連携
・集会所と空き店舗を利用した臨時のカフェ運営
・NPO法人「やまぼうし」との打ち合わせ

「若者の居場所作りに向けた取り組み」

・館小中学校への呼びかけ
・翔陽高校への外部講師
・ワークショップを並行して運営

活動の成果

「空き店舗利用に向けた取り組み」
・臨時のカフェの定期開催を継続
1, 2ヶ月に1回のペースでの開催
・NPO法人「やまぼうし」とのコンタクト

「若者の居場所作りのに向けた取り組み」
・翔陽高校にて授業
・翔陽高校の生徒と館ヶ丘団地で活動

「その他」

・金曜1限に毎週対面でミーティング
・プロジェクトとしての歴史を振り返り現状を把握する

目標の達成度

「継続的な空き店舗利用」
・秋学期は臨時カフェの運営回数は減少
・NPOに協力を仰ぐことによって継続的な運営を目指す

自分たちの現状を整理し、今何が必要で何が足りていないのかを把握出来た。

今後の課題点

「様々なNPO法人への継続的な打診」
・現状としては「やまぼうし」とのコンタクトのみである
・様々なNPOと接触を取り、協力してもらう事の出来る団体を探す

「館ヶ丘団地の調査」

・館ヶ丘団地にいる若者の調査
・この若者が館ヶ丘団地に感じていることを把握する。



秋チャレ

もとはち水縁プロジェクト



活動の目的

本活動の目的は、水路を活用して地域住民や学生が地域とのつながりを持つことでその地域に対して愛着を醸成していくことである。
また、本活動を通じて、①水路周辺の環境保全
②伝統文化の継承、③遊休資産の活用、
④多世代や地域住民の交流機会の減少の解消等にも今後取り組んでいく。

活動の成果

- ・地域の方々との信頼関係の構築
- ・メンバーの活動フィールドへの愛着
- ・地域活動に興味のある学生・関係人口の創出

活動で見込める効果

- ・地域住民のUターンの促進
- ・地域住民の交流の促進
- ・まちづくりや地域活動に興味のある学生の創出
- ・八王子周辺地域の関係人口の創出
- ・新たな観光資源の創出

目標の達成度

60%

- ・地域のイベントへ参加やボランティアを通じて地域住民と信頼関係を築くことができた(7回以上)
- ・年内に自分たちでイベントを2回ほど実施する目標は達成することができなかった

今年度取り組んだ活動

2025

5月-活動の開始

6月-活用する水路の視察

7月-水路の草刈りと水路の調査

9月-水路の清掃活動、こども食堂ボランティア

10月-川の生態調査・草刈り、北条氏照祭りへの参加
カワラノギクお花見会へ参加

11月-こども食堂ボランティア、防災訓練への参加

12月-こども食堂ボランティア、もちつきイベントへの参加

1月- 活動なし

2月- 活動なし

今後の課題点

- ①SNS（インスタグラム）での情報発信
- ②サークル内の仕組みの構築
(定例会、交通費フォーム、)
- ③今後の活動予定をより綿密に組むこと
- ④メンバーそれぞれの役割を明確にする
- ⑤水路を活用したイベントの実施



秋チャレ

フェアトレード推進プロジェクト Terra



【活動の目的】

- ・フェアトレード推進
- ・児童労働解決への糸口を見つける
- ・学生のフェアトレードに対する理解向上

【活動の成果】

- ・3日間で約70杯の売上

【目標の達成度】

- ・カフェチームとのコラボによりフェアトレード商品を気軽に知ってもらう機会を作ることができた。

【活動で見込める効果】

- ・学生がフェアトレードをより身近に感じ、国際課題や児童労働の問題について理解を深める。
- ・学生にフェアトレード商品を購入する機会を提供する。

【今年度取り組んだ活動】

- ・10月18日
フェアトレードコーヒーの販売(多摩祭)
- ・11月26~28日
Mogooでフェアトレードコーヒーの販売
(SICカフェチームとコラボ)



【今後の課題点】

- ・フェアトレードについて「知ってもらう」段階にとどまったため、継続的な関心や活動に繋げる工夫が足りなかった。

ボランティアスタッフ



活動の目的

- ①地域の人々の防災意識を高めること
→防災は決して特別なものではなく、日常的に意識する必要があるものだと伝える
- ②子どもから大人まで幅広い世代に興味を持ってもらう
→子連れ参加が多く、小さいころから防災に触れる機会を作る

活動で見込める効果

- ①防災意識の普及
→イベントや体験を通して“知る”きっかけをつくる
- ②行動への第一歩につなげる
→体験後に「備え始めようかな」と思ってもらう
- ③継続的な関心の獲得
→参加してくれた人に防災を身近に感じてもらい、今後も関心を持ち続けてもらう

今年度取り組んだ活動

- 5月：学生天国
・防災カードゲーム（ナマズの学校）
- 8月：JR八王子駅とのコラボ
・駅利用者向け防災啓発
- 9月：竹カフェ
- 11月：まちカフェ
・防災ゲーム×ボール投げ
- 12月：防災フェスタ
・防災カードゲーム（ナマズの学校）
- 3月：竹カフェ
・パラリンピックスポーツ「ボッチャ」を通じた交流企画

活動の成果

- ①年間を通じた地域イベントへの参加
→継続的に地域と関わることで、防災を身近なものとして発信できた
- ②他プロジェクトとの協力
→新しい視点やアイデアをえることができ、活動の幅が広がった

目標の達成度

- ①防災意識を高めるという目標は一定程度達成
→子供連れの参加が多く、早い段階で防災に触れてもらえた
→体験型企画により印象に残りやすかった
- ②より専門性の高い知識の獲得できた
→防災士資格取得

今後の課題点

- ①団体名・活動内容のわかりにくさ
→名称変更をして、より伝わりやすい団体へ
- ②明確なテーマ設定
→「食×防災」など軸を定める
- ③地域との関係強化
→相原地区の方々との交流が深まり、顔の見える関係づくりに励む
- ④継続的な関心の維持
→一度きりでは終わらせない



MoPA(mogoo/Patio運営チーム)



mogoo

法大生の「やりたい！」を形にできる場所として、SICが運営するスペースです。改修は学生たちがDIYで行いました。社会課題解決に向けたアイデア実現に向けた調査や実験に関するイベントを実施できるだけでなく、フリースペースとしても開放されています。



Patio

大学での学びを豊かにするための場所として、SICが運営するスペースです。部屋にはプロジェクターが設置されており、様々な興味関心を持った学生間の交流会やイベント実施など様々な用途で使用することができます。



〈活動の目的〉

“あなたのやってみたい！を形にしませんか？”をコンセプトに学生が“個人・団体を問わず”、“いつからでも”「**やりたい！**」に向かって活動や交流、実践できる場所として、スペースの貸出やイベントの実施等の活動をしていきます。

- ①学生が持ち込んだ企画を実施
- ②MoPAとして企画を実施
- ③フリースペースとして開放

〈活動で見込める効果〉

- ①学生が自分の考えや、やりたいことを形にする場所を提供できる
⇒**実現可能性**などについての学びを深める
- ②MoPAが企画するイベントを通じて、様々な学生と交流ができる
⇒**交流**の機会の提供
- ③フリースペースとして開放することで、自分にあった使い方ができる場所
⇒学校に“**あなただけの居場所**”を提供

〈今年度取り組んだ活動〉

- 10月**
 - ・mogoo塗装（下地）
 - ・多摩祭出店（屋台：豚汁）
- 11月**
 - ・mogoo塗装（下地）
 - ・家具搬入
 - ・terra・chalfeと共同でカフェ出店
- 12月**
 - ・mogoo塗装（本塗）
 - ・mogoo説明会・内覧会
 - ・鉄道×旅行イベント
 - ・多摩地域形成論でmogooの紹介
 - ・circulationの映画上映（会場：patio）
- 1月**
 - ・mogoo塗装（業者）
 - ・ポスト作成



自由を生き抜く実践知大賞

2025年度（第9回）「自由を生き抜く実践知大賞」で、SIC所属のTeam Ethical by ホーセイイノベーションクラブによる「100円モーニング」の取り組みが「後援会賞」を受賞しました。この取り組みは、SIC教員プロジェクト「スポーツブランディングラボ」からの資金支援を得て、1食あたり500円相当の食事を100円で提供し、学生に朝食の習慣づけと交流の場を提供することを目的としたものです。授賞式では、ダイアナ・コー総長より「地域や卒業生との連携に加え、在学生同士の交流や良い生活習慣の形成につながる側面もあり、多面的な意義を持つものだと感じた」とのコメントもいただきました。



相模原市地域活動・市民活動ボランティア認証制度



2026年2月6日、ウェルネスさがみはらにて「令和7年度相模原市地域活動・市民活動ボランティア認証制度」認定証贈呈式が行われ、ソーシャル・イノベーションセンターからは相模原市緑区で活動する5プロジェクトが本村市長から認定証を授与されました。今年度は、30時間以上の活動実績のある学生に贈られる「個人賞」にも23名が認定されました。なかには150時間以上の活動実績がある学生もおり、地域での活発な活動を改めて実感することとなりました。この認定制度は、相模原市と締結した包括連携協定に基づいて実施する「相模原市地域活動・市民活動ボランティア認証制度」により、公益的な活動に積極的に参加し、地域住民の福祉の増進及び市民生活の向上に貢献した個人や団体に対し、相模原市として認定の上、認定証を贈呈するものです。なお、本学は2020年度に相模原市との包括連携協定を締結しています。

【受賞団体】

- ・たまぼら 藤野やまなみプロジェクト
- ・たまぼら 佐野川プロジェクト
- ・しろやまふれんず
- ・若葉台プロジェクト
- ・あつまれ緑区プロジェクト

SIC 教員プロジェクト

SICでは、学生のみならず、教員によるプロジェクト活動も支援しています。

人馬のウェルビーイング

多摩キャンパスの城山校地は体育会馬術部の活動拠点となっており、部員たちは10頭ほどの引退競走馬と共に日々体育会活動に励んでいます。その馬術部が中核を担う『人馬のウェルビーイング』は、地域社会において子供や障害者を含む人々と、引退競走馬をはじめとする「馬」との関わりを深め、人馬双方の健康で幸福なくらしの実現を図る、本学発祥



の活動です。

2024年度には、SICの新たな学生プロジェクトとして「法政馬広場」がスタートしました。地域の子供たちへ馬との触れ合いやウェルネス乗馬を提供できるよう、学生主体で企画・運営に取り組んでいます。こうした学生プロジェクトの活動は、人馬のウェルビーイングをめぐる本学の取り組みに新たな広がりをもたらすものとして、今後のさらなる展開が期待されます。

スポーツブランディングラボ

2023年度のSIC発足以降、多摩キャンパスの強みである“法政スポーツ”を広く認知し、体育会学生を応援してもらえることを目指し、SIC教員プロジェクトとして活動しています。2025年度には、主に以下の活動を行いました。

① 100円モーニング企画への協力



SIC学生プロジェクト Team Ethical by ホーセイノベーションクラブの「100円モーニング」企画への資金援助および管理栄養士（スポーツ健康学部卒業生）によるメニュー監修に協力しました。この取り組みは、本学の「自由を生き抜く実践知大賞」において「後援会賞」を受賞することができました。

② 恩方地区運動会への参加

2025年10月12日に八王子市恩方地域で行われた多世代が参加する地域の運動会に、陸上競技部の部員たちが参加しました。徒競走やリレーなどの種目はもちろん、綱引きやパン食い競争など様々な種目に参加し、地域の方々とスポーツを通じた交流を行いました。最後には、長距離ブロックの学生が箱根駅伝の応援をお願いする挨拶をして、多くの方に法政大学を応援していただくことにもつながりました。



③ 学生生活課主催・課外教養プログラム「法政サッカー部公式観戦ツアー」への協力



法政大学多摩学生生活課主催の法政大学サッカー部公式観戦ツアーは、「法政スポーツ」の応援を通じて、法政大学への帰属意識の涵養や学生同士の交流促進、多摩キャンパス活性化を目的として行われています。今年度は、2025年10月30日に実施。SICも本取り組みに協力し、有志の学生によるサッカー観戦のポイントや注目選手などについての説明会やドリンク・軽食の提供も行いました。その結果、本ツアーには例年より多くの学生が参加し、アンケートでは、「感動的なサッカーを見ることができた」「事前レクチャーがあった為、親近感を持って試合観戦が出来た」「事前情報、軽食含めサッカーを全く知らない自分でもとても楽しくサッカーを観

戦ることができた」という声を聞くことができ、参加者の満足度もとても高いプログラムとなりました。

④ 相原スポーツ広場 FUN DAY

2025年11月8日に行われた町田市相原中央公園内にあるスポーツ広場で開催されたスポーツイベント「相原スポーツ広場 FUN DAY」に陸上競技部員が参加しました。当日は、子どもたちに正しい走り方を教える「走り方教室」の講師を担当し、訪れた子どもたちへ20分の教室を8回実施。合計44名の方に参加してもらうことができました。

⑤ 法政クラブでの紹介動画の制作

法政クラブは、学生、卒業生、企業、地域の方々が出会い、学び合いながら、新たな価値を生み出していく場です。今年度のスポーツブランディングラボでは、法政クラブで指導する学生や参加者の方々の声を通して、法政クラブを知ることのできる動画を作成しました。2026年2月に公開後、年度末までに2,000回近い視聴数を達成しました。

動画は下記 URL からご覧いただくことができます。

法政クラブの“想い”～法政クラブのご紹介
(URL: https://www.youtube.com/watch?v=S28n9Enb_SE)



CAMP in Campus



CAMP in Campus は避難生活の代替案として大学のキャンパス内でテントを張って野営を行う実証実験の取り組みで、現代福祉学部・水野雅男研究室が主催しています。

現代でも日本の避難所の多くが小中学校の体育館に雑魚寝という状況にある中で、CAMP in Campus は「人間らしい」避難生活を送る環境を作り出すことを目標とし、法政大学多摩キャンパス内の芝生広場を会場として、年に4回、シーズンごとにキャンプを実施しています。

2025年度は、ヤマザキ動物看護大学と協力し、ペットを連れた避難生活のあり方も検討しました。SICでは引き続き本活動をサポートしていきます。



SIC 教育プログラム 「たまらぼ」



ら行動して新しいチェンジを生み出すための場」。実践に重きを置いた講座やメンターによる伴走支援によって、学生たちのチャレンジをサポートしています。

多摩キャンパスは山間地域と都市郊外のちょうど中間あたりに立地しており、さらに、社会課題について学ぶ学部が集まっています。その特徴を生かし、社会課題の解決に向けて持続的に活動する「社会的起業」を目指す学生を支援するプログラムとして、NPO 法人 ETIC. の協力を受け、2023 年度に新たな課外プログラム「たまらぼ」を新設しました。たまらぼの理念は「自

チェンジメーカーズ ラボ in 多摩（通称：たまらぼ）

地域や社会の課題が複雑化・多様化していく中、創造的なアイデアや行動で、現状を変えていく「Changemaker（チェンジメーカー）」が求められています。SICでは、チェンジメーカーや起業家など、現状から課題解決の突破口を見いだして行動していく人達が集う新たなプログラム「チェンジメーカーズラボ in 多摩（通称：たまらぼ）」を2023年度に立ち上げました。

3年目となる今年度（2025年度）は、5つのチームがプログラムに参加し、約3か月にわたるプログラムを受講。自ら考え行動することを第一に、それぞれの社会課題に向き合いました。

2025年度の学生たちが取り組んだテーマ

- ・若者向けの旅行支援サービス
- ・フリースクールでの不登校生向け職業学習支援
- ・災害復興×ボランティア×旅行のコーディネートサービス
- ・窓を活用した個人商店向け広告サービス
- ・多摩キャンの居場所＝カフェ×交流

プログラムの特徴

1. 同世代コミュニティと専門家によるバックアップ

起業やチェンジメーカーになることを目指す同世代の仲間が集い、相互に刺激を与え合いながら、課題解決への道筋を探ります。また、大学や、社会起業家を目指す若者支援に取り組んできた NPO 法人 ETIC. のコーディネーターをはじめ地域の中間支援コーディネー

ターも加わり、学生のプロジェクトの加速を全面バックアップします。

2. 講座やフィールドワーク、メンタリングなどからなるプログラム

講座やフィールドワークなど多様な内容で構成されるプログラム参加を通じて、プロジェクトが磨かれていきます。学んだ知識をもとに、プロジェクトを持続可能にするためのビジネスモデル構築や、リソース調達について学ぶことができます。

3. 優秀な活動に対しては大学からの支援金も！

優秀な活動には、大学から支援金（最優秀賞 30 万円、優秀賞 10 万円）が贈られます。また、プログラム参加後も、引き続きの活動をサポートします。

2025 年度のプログラム内容

第 1 回：キックオフ（プロジェクトの立ち上げ方）

ゲストプレゼンテーション

①大場勇弥氏（フリースクール cas!ca 代表）

②平井登威氏（NPO 法人 CoCoTELI 代表）

第 2 回：ターゲットの深堀り・ペルソナ設定

顧客ニーズを一層深く理解するための行動計画策定

第 3 回：各チームの 5 分プレゼン（顧客インタビューの結果）

事業やサービスの仮設づくり

第 4 回：各チームの 5 分プレゼン&フィードバック

「伝える」ための方法

第 5 回：成果報告会（DEMO DAY）



たまらぼ DEMO DAY



たまらぼプログラムの最終回には、それぞれのチームによる最終発表会（DEMO DAY）が行われ、優秀なプレゼンには大学から支援金（最優秀賞 30 万円、優秀賞 10 万円）が贈られます。

今年度は、2025 年 11 月 4 日（火）、東京たま未来メッセ（東京都八王子市）にて、2025 年度 SIC 教育プログラム「チェンジメーカーズラボ in 多摩（たまらぼ）」の最終報告会“DEMO DAY”を開催しました。プログラムに参加している学生のほか、地銀などの金融機関、町田市や八王子市で地域活動を支援する組織などからもご参加いただき、オンライン視聴も含めると約 40 名が集まる活気のあるイベントになりました。

【審査員】

- ・小川 佳那恵 氏（特定非営利活動法人かぶかぶ山のようにえん 理事長）
- ・高井 大輔 氏（特定非営利活動法人プラナス 事務局長）
- ・大場 勇弥 氏（cas!ca 代表）

たまらぼ 歴代受賞者の紹介

第1回目(2023 年度)

最優秀賞:法政大学多摩キャンパスと駅間における移動の利便性向上



多摩キャンパス長年の課題とされる「交通アクセス」。そこで、バス移動の代替手段として、電動モビリティの導入プランを提案。学生の移動手段以外にも周辺地域への観光・産業の活性化等に生かすことのできる新たなビジネスモデルとして、審査員からの高い評価を受けました。



優秀賞:Fun Quest「孤育てからの解放」×すべての子供への多様な学びと経験の機会創出



共働きの子育て世帯において、離職を選択する女性が多い現実に対し、学生の力で共働き世帯の抱える問題を解決する「FunQuest」を提案。学生が学んだことを生かす実践の場と共に、子ども見守りサポートのサービスを通じて、「孤育てからの解放」と「全ての子どもへの多様な学びと経験の機会創出」を目指しました。

優秀賞:食と音楽の掛け算で新たな繋がりをデザインするプロダクト『Moodish』



チームのビジョンは「好きなことに注力する人を増やしたい」。一般大学生よりも音大生の就職率が低いことに着目し、音大生たちへのヒアリングで音楽以外の選択肢を知る環境に無いことを発見。そこで、音楽特化のピンポイントアルバイトのプロダクト「Moodish」を提案しました。

第2回目(2024 年度)

最優秀賞:バス通学を便利に、学生×飲食店をつなぐアプリ開発



多摩キャンパスでは、多くの学生が路線バスを利用して通学しています。そこで、バスの待ち時間を減らすため、大学から最寄り駅までのバスの時刻表を簡単に調べることでできるアプリ「たまっぷ」を開発。さらに駅周辺の飲食店と提携し割引サービスを付加したことで、学生の利用を促し、キャンパス周辺の地域活性化にも寄与することを目指しました。



優秀賞:カフェで紡がれる、若者のための居場所プロジェクト



中高生の居場所に対する支援の不足と、若者の孤独感・自己肯定感の低さを解決するために、中高生の居場所支援を大学生のボランティアで行うプロジェクトを提案。中高生が気軽に立ち寄ることのできるカフェを大学生が運営することで、全ての若者に「安心感」と「選択肢」がある未来を目指していきます。

優秀賞:学んだ後はソクメシ! 昼食を受け取るデリバリーサービス



近隣に飲食店が少ない多摩キャンパスの昼食問題の改善のため、事前に注文を受け、指定場所ですぐにお弁当を受け取れる仕組みを考えました。プログラム中には近隣の飲食店の協力を得て実証実験も行い、学生からも好評でした。

第3回目(2025年度)

最優秀賞:”方舟の旅”プロジェクト



全国各地で災害が多様化・激甚化し、災害からの復興が地域課題となる中、実際に何度も能登へ足を運び、復興活動と旅行を組み合わせたツアーの企画・仲介を行うサービスを提案しました。今後は、事業化に向けたプランの精査と試行ツアーの実施などを予定しています。



優秀賞:フリースクール先での不登校生向け職業学習支援



自身の原体験をもとに、不登校の子どもたちに向けた職業講演イベントを企画・実施。不登校の子どもたちにとって、学校を卒業した後の進路を考えるためのサポートが不十分であることを課題と考え、地域で働く方々を講師にした講演会を実施しました。

優秀賞:地域を盛り上げる スキマ広告-町の余白をデザインするお店を地域一丸で支えていく新しい広告サービス-



窓や扉などの空きスペースを活用して広告を掲載する個人商店向けの広告サービスを提案。地域の思い出のお店を残したいという思いから生まれたアイデアです。近隣地域の商店街を対象として、サービスの営業から広告の制作・掲示をするという実証実験を行いました。

SIC カフェ

SIC では、ゲストを招いて、学生も地域も共に学び、“語り合う場”として「SIC カフェ」を開催しています。カフェでの学びをきっかけに、新しい活動のヒントになったり、人との出会いによって日常が少し豊かになったり、そんな学びと出会いの気軽な交流拠点を目指します。



第1回（2025年6月6日）

「子どもの自然体験活動から広がる社会づくりを知ろう」

ゲスト:吉田愛都さん(NPO 法人グリーンウッド)



2025年度第1回目のSICカフェは、人口1,500人ほどの長野県泰阜村で子どもたちの自然体験教育を行っているNPO法人グリーンウッドの吉田さんにゲストとして、お越しいただきました。

NPO法人グリーンウッドは、自然の中での生活を通して生きる力や人とのつながりを生み出していく「ねっこ教育」を掲げ、山村留学事業やフリーキャンプなどの教育事業を幅広く行っています。

吉田さんからは、子どもたちが自然の中で暮らすことでどのような変化が生まれるのかについてさまざまな経験談をもとにお話いただき、分断の進む現代社会において人とのつながりを感じることでできる「体験」を生み出すことの重要性を感じることでできる回になりました。カフェに参加した学生の中には、昨年実施された「山賊キャンプ」にボランティア参加した学生もおり、子どもたちと自然の中で過ごすことの楽しさや意義について語りあうことができました。

第2回(2025年6月18日)

「戦後80年。多摩キャンパスからもう一度平和について考える～語り部さんによる被爆体験講和～」

ゲスト:上田紘治さん、永町謙さん(八王子平和・原爆資料館 語り部)

第2回目のSICカフェは、学生主体で実施した出張平和資料館企画の一環として、EGGDOMEのスローワールドカフェを会場に、八王子平和・原爆資料館の語り部の方をお招きして開催しました。

お1人目の登壇者である上田紘治さんは3歳の時に広島で被爆し、現在は八王子で暮らしています。長年被爆の後遺症に苦しまれてきた上田さんからは、原爆がいかにか人間にとって恐ろしいものであるのかというお話を聞くことができました。

また、2人目の登壇者である永町謙さんは、八王子平和・原爆資料館に所蔵されている広島で被爆死した学生の学生服の持ち主、豊島長生さんのご親族です。永町さんからは、当時「建物疎開」の作業に従事している中で被爆し亡くなった豊島さんをはじめとした県立広島二中の生徒たちの話をお聞きすることができました。

講演後は、出張展示企画として多摩キャンパス内に展示していた八王子平和・原爆資料館の所蔵品をみんなで見学。今回のカフェには、多摩キャンパス近隣地域の方々にもたくさんお越しいただくことができ、戦後80年の機会に改めて平和について考えることのできる貴重な機会となりました。



第3回(2025年7月14日)

「ゴミ山から仕事を創り出す ガーナで取り組むソーシャル・イノベーション 環境問題×貧困問題×アート」

ゲスト:木村太一さん (MAGO MOTORS JAPAN 株式会社 取締役)



第3回目のSICカフェでは、多摩キャンパスの卒業生(2011年経済学部卒業)でもあるMAGO MOTORS JAPAN株式会社の取締役木村太一さんをお招きし、お話しいただきました。

木村さんは「世界最大級の電子機器の墓場」と言われるガーナで、廃棄物で作ったアート作品の販売によって現地にもリサイクル工場建設を進めるとともに、EV事業や農業など現地で雇用を生み出すための事業拡大にも取り組まれています。

お話の中では貧困や環境汚染など、現代社会に山積する様々な課題を解決するためには持続的な関わりが重要であり、そのためには金銭的資源を確保することも重要であるということにも触れられていました。参加した学生たちは、多摩キャンパスの先輩の新たな取り組みに刺激を受けたようで、講演後は活発な質疑応答がなされていました。

第4回(2025年10月10日)**「茶×観光＝まちおこし～嬉野ティーリズムから学ぶ新しい「旅」のかたち～」****ゲスト:北川 健太 さん(旅館大村屋 15 代目)**

2025年度第4回目のSICカフェは、佐賀県嬉野で温泉旅館を営みながら、「暮らし観光」や「ティーリズム」など新たな旅のスタイルづくりに取り組む北川健太さんをゲストにお招きしました。



佐賀県嬉野市は、嬉野温泉と嬉野茶、さらに陶器（備前吉田焼）が有名なまちですが、バブル崩壊以降、観光客の減少に悩まされていました。そこで地域の旅館経営者や茶農家の方々が協働して生み出したのが、「一杯のお茶を求めて旅する」ことを掲げた「ティーリズム」というスタイルです。

高台の茶畑の中に設置した天茶台など特別な空間でお茶を提供する「茶空間体験」や、嬉野茶を持ち歩きながら観光することのできる「歩茶」など、お茶をめぐる「体験」をデザインすることで、お茶の付加価値を高め、観光地に来る人も増加するという相乗効果を生み出しています。

カフェに参加した学生の中には、佐野川地区でお茶栽培に取り組む「佐野川プロジェクト」の学生もおり、自分達の取り組む活動とリンクさせながら、既存の資源を活用して地域を活性化する方法について考え直すよい機会となりました。

第5回(2025年12月8日)**「アイデアを動かし、組織を動かすプロダクトマネジメントで課題を整理する力を学ぶ」****ゲスト:八木 誠 さん(トラパス株式会社 CEO)**

2025年度第5回目のSICカフェはトラパス株式会社の八木 誠さんをお招きし、アイデアを形にするための考え方「プロダクトマネジメント思考」についてのレクチャーを行っていただきました。

学校向けのシステム開発やキャリア支援会社で事業や組織開発を行ってきた八木氏からの具体例を用いたレクチャーや、ワークショップも交えながら、アイデアを形にするための道筋や、そのための組織（仲間）の作り方などにつ

いて学ぶことができました。

SICに所属する学生プロジェクトの中にも、メンバー数が拡大したことで、メンバー間での情報共有や役割分担などチームマネジメントに悩むプロジェクトが増えてきています。参加した学生からは、「メンバーで目的意識を共有することの重要性がわかった」、「今後の活動に活かしたい」といった声が聞かれ、自分たちの活動の進め方を見直す機会となったようでした。

イベント

SICでは、さまざまな主催イベントを通して、学生・教職員・近隣住民など外部の皆様とソーシャル・イノベーションを感じることでできる機会も設けています



オープンキャンパス



2025年8月5日・10日に多摩キャンパスで開催されたオープンキャンパスで、ソーシャル・イノベーションセンター（SIC）の活動を紹介しました。

法政大学のオープンキャンパスは学生スタッフが主体となって企画・運営されており、SICのブースではSIC学生スタッフが参加しました。

SICでは「“多摩キャンパス”をめいっぱい楽しむ！」をテーマに、多摩キャンパスでの課外活動として、学生プ

ロジェクトの活動や、ボランティア活動などをポスター展示し、日常の活動の様子を紹介しました。また、今回のオープンキャンパスでは、SIC所属の佐野川プロジェクトが育てた「佐野川法政茶」の冷茶の試飲も行いました。SICを訪れた来場者は学生スタッフの話を熱心に聞いてくださり、SICでのプログラムや学生プロジェクトの個別活動について会話も弾んでいました。



中間報告会



2025年10月11日（土）、SICに所属する学生プロジェクトの中間報告会を開催しました。

学生PJは年度初め（今年度は5月）に助成金申請の審査会を受け、1年間の活動を行います。中間報告会は半年間の活動の成果や課題、また秋以降の活動計画などを共有するために実施しています。各PJの活動状況を知るだけでなく、学生同士や、SIC運営委員（教職員）との間で意見交換が行えることも大きな特徴です。

中間報告会には、PJ化を目指して秋学期から助成金を受けて活動する2つのチームや、学生ボランティアスタッフも含め、60名近くの学生たちが参加しました。学部生には経験の少ない、ポスターセッション形式での発表で緊張感のある様子でしたが、フロアからの質疑も活発に出され、幅広く活動している様子をお互いに知ることが出来ました。また、後半の学生スタッフが主催したワークショップでは、SICやSIC学生スタッフに期待することについて考えるワークを実施。ワークショップで様々なPJ間の交流が深まり、コラボ企画が生まれるなど、新たな活動のきっかけとなるイベントになりました。

地域交流 DAY



SICに所属する学生PJの年度末の活動報告会として「地域交流 DAY」を毎年開催しています。SICの前身となる多摩地域交流センター（HUCC）開設時から続く「地域交流 DAY」は、学生プロジェクトの年度末の活動報告として開催しており、地域の方々と学生が今後の地域の在り方について語り合う場となっています。2025年度は2026年3月1日（日）に開催しました。

今回の「地域交流 DAY」では、今年度活動を行ったSIC学生プロジェクト20団体に加え、4月より本格稼働する新スペースmogoo・Patioの運営チームMoPAによる年度末の最終報告を行いました。

また、活動報告会終了後は、ポスターセッションおよびSICの学生スタッフが企画したワークショップを開催しました。当日は、学生プロジェクトに参加している学生や教職員だけでなく、近隣地域の住民や関係機関の方々など総勢140名近くの皆さまにご参加いただき活発な議論が行われ、盛況に終わりました。



その他のイベント

出張平和資料館企画



2025年6月16日（月）～6月20日（金）の期間で学生自主企画（SICの協力）として、八王子平和・原爆資料館の出張展示を開催しました。また、期間中の6月18日（水）には原爆の語り部の方をお招きしたSICカフェ（講演）も実施しました。

本企画は、学生有志の団体H20による提案で実施。戦後80年を迎え、

少しずつ風化していく戦争の記憶を語り継ぐため、学生やキャンパス近隣地域の方々が戦争や原爆に関する展示に触れる機会を創出し、改めて平和について考える機会を生み出すことを目的としたイベントです。

実施にあたっては、八王子平和・原爆資料館の展示品をお借りし、多摩キャンパスでの出張展示を行いました。広島で被爆死した中学生・豊島長生さんの血染めの服や、熱線で溶けた皿、原爆瓦など原爆に関する展示品のほかに、原爆に関する解説パネルなどを展示。学内外の多くの方に参加していただき、改めて平和の大切さについて考える機会となりました。



HOSEI DEI FEST

2025年11月28日（金）、法政大学多摩キャンパスの円芝を会場に、学生有志によるDEI（Diversity, Equity and Inclusion）推進のための野外音楽イベント「DEI FEST」を開催しました。

このイベントは、学内のDEI推進活動の一環として、学生主体で「楽しさ」と「学び」の融合したアプローチを模索したもので、DEIの理念を文化・芸術を通じて体感してほしいという思いが込められたイベントでした。

当日は、ダンスミュージックを中心とした音楽イベントの実施に加え、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンセンター（DEIセンター）協力のもと、DEIと音楽の関係について学ぶことのできる展示も実施しました。さらに、本イベントには本学のダイアナ・コー総長からのメッセージも寄せていただき、その音声を会場で流す場面もありました。イベントには学生だけでなく、近隣地域の住民の方なども含め100名近くの方が足を運んでくださり、参加者たちはDEIに関する展示を見学したり、DJの音楽を聴きながら会話を楽しむ様子がみられました。



ボランティア

SICにはボランティアセンターとしての機能もあり、地域・社会が求めるボランティア活動に学生の皆さんが参加する機会を提供しています。多様なボランティア・ニーズに触れることが地域社会の課題への気づきにつながります。



竹カフェ

「竹カフェ」は、相原地区協議会との連携事業として毎年開催している地域交流イベントです。2025年度は下記の内容で竹カフェを開催しました。

竹カフェ 1回目 防災イベント

竹カフェ1回目の開催（2025年9月20日開催）は、「CAMP in Campus」の活動紹介と、ボランティアスタッフによる「防災シミュレーションゲーム」の二本立て企画で開催しました。

「CAMP in Campus」の活動紹介では、実際に使用しているテントやテーブル、調理器具などに触れて、使い心地を体験してもらうほか、2024年元日に起こった能登半島地震の被災地である石川県珠洲市での支援活動についても紹介しました。

防災関連企画では、ボランティアスタッフの考案した防災シミュレーションゲームとして、防災にまつわるクイズと、身の回りのもので簡単に作れる防災グッズを実際に作ってみるワークショップを行いました。災害発生から時系列に沿って展開していくストーリー仕立ての企画となっており、大変好評でした。



竹カフェ 2 回目 ボッチャ大会



2026年3月7日には、2回目の竹カフェとして、パラリンピックの公式種目で、年齢や性別、障がいの有無を問わず、交流を深めるのに最適なパラスポーツ「ボッチャ」の体験大会を実施しました。

当日は、学生ボランティアスタッフ4名と、オープンキャンパスリーダーズの学生2名、地域の方々21名の計27名が参加し、全4チームでの総当たり戦を行いました。上位チームから、景品の法政グッズをゲットできる

形式で、熱い試合が繰り広げられました。試合が進むにつれ、参加者全員が打ち解け、和気あいあいとした雰囲気となり、地域の方と学生の交流を深める場となりました。

★学生天国★



「★学生天国★」は大学コンソーシアム八王子に加盟している25大学等に所属するサークルやゼミが、日ごろの活動や研究の成果を披露するイベントです。SIC学生ボランティアスタッフは毎年参加しています。今年度は2025年5月11日（日）に開催され、防災をテーマに、防災カードゲーム「なまずの学校」の試遊に加え、自分たちで作った防災クイズのブースを展開。昨年よりもさらに幅広い年代の方々に楽しみながら防災の知識に触れ

てもらうことができました。また、学生自身も参加者の方々との交流の中で多くを学び、今回も実りある活動になりました。

救急救命・防災減災ワークショップ「学生と学ぶ、命のそなえ」

8月30日（土）、31日（日）の2日間で、JR東日本八王子支社の防災・減災啓発イベントに、ソーシャル・イノベーションセンターの学生スタッフとボランティアスタッフが参加しました。

当日は、八王子駅の多目的スペース「つながルーム」を会場に、神戸市消防局職員が開発したカードゲーム型の防災訓練教材「ダイレクトロード【初めての町】」を使用したワークショップを実施。駅構内での開催という

こともあり、両日ともに当初の想定よりも多くの方々にお立ちよりいただき、2日間で50名以上の方が参加してくださいました。参加者はご夫婦、親子、防災について学んでいた大学生など多様で、東日本大震災を間近で体験された方などからお話しをお聞きする機会もあり、学生にとっても有意義な時間となりました。



まちカフェ！



「市民協働フェスティバル『まちカフェ！』」は、町田市内で活動する NPO 法人や市民活動団体、地域活動（町内会・自治会）などが一堂に集い、活動発表などを通じて交流を深めるためのイベントです

2025 年 11 月 29 日（土）に開催された今年度のまちカフェ！には、子ども向けの防災クイズ企画を実施しました。防災にまつわる三択クイズを出題し、答えだと思った番号のバケツにお手玉を入れることができれば正解、とい

う、体も動かしながら学ぶことのできる企画で、30 組以上の方にご参加いただきました。

防災体験フェスタ

2025 年 12 月 13 日（土）には、子どもセンターばお（町田市相原町）で開催された「防災体験フェスタ」に SIC 学生ボランティアスタッフが参加しました。

防災体験フェスタは、子どもセンターばおが「ひとりひとりの防災意識を高めることで地域全体の防災力を高めよう」という思いで開催されているイベントです。

SIC 学生ボランティアスタッフは、防災カードゲーム「なまずの学校」体験と防災クイズのブースを運営しました。昨今の自然災害の多さによる防災意識の高まりもあり、お子様連れのご家族を中心に、多くの方々にご参加いただきました。遊びながら本格的な防災知識が学べるゲームとして、子どもたちにも楽しく参加してもらえたようでした。

【SIC 学生ボランティアスタッフ】

学生のボランティア活動促進のための学生スタッフです。町田市相原地域の住民交流イベント運営のほか、地域のイベントへの協力などを行っています。

その他のボランティア活動(一部)

国際交流団体「Fitus」と福祉施設との交流

国際交流団体 Fitus（フィッタス）は大学公認のサークルとして、留学生と日本の学生の懸け橋になることを目的に多摩キャンパスで活動している団体です。

今年度は、Fitus のメンバーが学生間だけでなく、地域の方々など交流の幅を拡大することを希望していたこともあり、SIC サポートのもと、相原地域の障害福祉サービス事業所・ハーモニーとの交流を始めました。利用者の方々とポッチャやカードゲームで一緒に遊んだり、留学生が自身の出身地を紹介する「旅行トーク」を行ったりしたことで、Fitus のメンバーたちからも、属性を超えた交流や対話の大切さを学ぶ機会になっているとの感想があり、今後も引き続き交流を進めていく予定です。



授業

多摩地域および社会全体の課題や、社会課題の解決に取り組む実践的な事例を知ることのできる授業を通して、ソーシャル・イノベーションの考え方を学んでいきます。



多摩地域形成論

多摩キャンパスの4学部の学生が履修できる共通科目です。多摩キャンパス版の「法政学」として、多摩キャンパスを取り巻く地域社会（歴史・文化・経済・社会環境、そこに暮らす人たち）から多摩の現状や課題を考えていきます。

SIC 関連科目群

ソーシャル・イノベーションに関連する科目について「SIC 関連科目」として多摩キャンパスの学生であれば所属学部の専門科目以外にも受講できる制度です。

〈2025年度 SIC 関連科目〉

- ソーシャルイノベーション論（現代福祉学部）
- コミュニティビジネス論（現代福祉学部）
- ローカルイノベーション論（現代福祉学部）
- 中小企業論（社会学部）
- コミュニティ・デザイン論 I（社会学部）
- スポーツマーケティング論（スポーツ健康学部）
- 日本経済論 A/B（経済学部）
- Business Research Seminar A/B（経済学部）

学生PJ 登録者数(2025年10月時点)

PJ名	登録人数	PJ名	登録人数
SIC学生スタッフ	30	法政馬広場	26
館ヶ丘プロジェクト	70	若葉台プロジェクト	10
寺田団地活性化プロジェクト (@団地)	41	あつまれ緑区プロジェクト	6
わくわくほうせい!	12	HTLプロジェクト	30
佐野川プロジェクト	56	地域にスポーツの楽しさを広めよう!	4
藤野やまなみプロジェクト	16	館ヶ丘YOUthBASE	7
ゆうやけプロジェクト	59	もとはち水縁プロジェクト	8
Team Ethical by ホーセイノベーショナルクラブ	39	フェアトレード推進プロジェクトTerra	3
Team Fashion by ホーセイノベーショナルクラブ	21	SICボランティアスタッフ	4
Team Circulation by ホーセイノベーショナルクラブ	10	MoPA	9
しろやまふれんず	68		
計(延べ)			529

外部資金・助成金獲得

助成団体	助成額(円)	概要	採択団体
さがチャレ(さがみはら大学生応援事業)	300,000	学生佐野川茶の収穫・販売	佐野川プロジェクト
町田法友会	80,000	佐野川の地域活動	佐野川プロジェクト
神奈川県相模原市緑区	99,000	若者への情報発信業務・委託	あつまれ緑区プロジェクト
キリン福祉財団	300,000	館ヶ丘団地の空き店舗活用	館ヶ丘YOUthBASE
城山湖里地里山観光振興協議会	20,000	城山地域における大学連携費	しろやまふれんず
町田市(相原地区協議会)	80,000	「大学との連携事業」に伴う助成	学生ボランティアスタッフ

受賞・認定等

月日	内容	受賞者
2025/12	自由を生き抜く実践知大賞「後援会賞」	ホーセイノベーショナルクラブTeamEthical (100円モーニング企画)
2025/12	相模原市SGDsパートナー認定、表彰	たまぼら佐野川プロジェクト
2026/2	令和6年度相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度	たまぼら藤野やまなみプロジェクト(個人賞4名) たまぼら佐野川プロジェクト(個人賞12名) しろやまふれんず(個人賞7名) あつまれ緑区プロジェクト 若葉台プロジェクト(個人賞2名)

ボランティア相談件数(2025年度)

月	相談人数(人)	月	相談人数(人)
4月	9	10月	13
5月	1	11月	10
6月	0	12月	10
7月	8	1月	0
8月	2	2月	0
9月	5	3月	0
計(延べ)			58

年間活動実績一覧

番号	日付	PJ名	開催方法	活動内容	参加者数
1	4/5	あつまれ緑区	その他	おおさわ桜まつり取村	
2	4/7~25	SIC	主催	新歌WEEKS	
3	4/14~16	Circulation, Fashion, Ethical, Magazine	主催	ホーセイノベーシオンクラブ welcome party	
4	5/11	ポラスタ	参加	学生天国	50
5	5/14	しろやま	協力	カワラノギク草むしり	4
6	5/17	しろやま	協力	城山まちづくり会議主催モルック大会	40
7	5/18	館ヶ丘	出店	館ヶ丘自治会・春祭り	650
8	6/1	佐野川	主催	さのさんぽ	30
9	6/6	SIC	主催	SICカフェ#1	11
10	6/7	しろやま	協力	本沢梅園祭り、梅もぎ	15
11	6/7	もとはち水縁	その他	八王子水辺のまちづくりPJ初回ツアー	8
12	6/8	わくわくほうせい	その他	福生環境フェスティバル	
13	6/8	しろやま	その他	e-bikeモニターツアー	21
14	6/12	もとはち水縁	参加	ホテル観音会	14
15	6/13	SIC学生プロジェクト有志	主催	ペットボトルロケット大会	20
16	6/13	YOUthBASE	参加	若者自立支援センター(八幡カフェ)	15
17	6/14, 15	教員プロジェクト	主催	CAMP in Campus(防災)	
18	6/18	SIC	主催	SICカフェ#2	30
19	6/24, 25	HTL	主催	フードドライブ	15
20	6/28	YOUthBASE	主催	学生カフェ	52
21	6/29	しろやま	共催	梅ジャムのラベルデザイン&レシピづくり①	8
22	7/5	学生スタッフ	その他	「たまさんぽ」青バスツアー	15
23	7/5	寺田団地	主催	グリーンヒルおひさま広場でお茶会	35
24	7/5	Fashion	出店	めじろ台七タイイベント	16
25	7/6	しろやま	協力	城山公民館子ども休日ボランティア	10
26	7/8~10	Fashion	出店	多摩夏(ハナタトゥー・物品販売)	50
27	7/8~10	Ethical	出店	多摩夏(紅茶サイダー販売)	106
28	7/8~10	Magazine	出店	多摩夏(ZINE、自己紹介カード販売)	30
29	7/12	もとはち水縁	参加	水辺のまちづくりPJ初回活動	7
30	7/13	しろやま	共催	梅ジャムのラベルデザイン&レシピづくり②	11
31	7/14	SIC	主催	SICカフェ#3	15
32	7/26	しろやま	出店	久保沢納涼祭	800
33	7/26	若葉台	出店	若葉台納涼祭	450
34	7/26	館ヶ丘	出店	若葉台納涼祭	450
35	8/3	しろやま	協力	高尾山観光ルート開発	13
36	8/3	わくわくほうせい	主催	夏休み工作・実験室	80
37	8/4	ゆうやけ、佐野川、館ヶ丘、やまなみ	主催	ゆうやけPJりびんぐ(たまぼら4PJで合同開催)	30
38	8/5	学生スタッフ	共催	オープンキャンパス	56
39	8/10	学生スタッフ	共催	オープンキャンパス	119
40	8/11	しろやま	共催	第4回みんなの津久井湖夏祭り	8500
41	8/16	しろやま	出店	小倉灯籠流し	
42	8/22	若葉台	共催	『若葉台ヒストリー番外編』	10
43	8/23	SIC学生プロジェクト有志	協力	川尻八幡宮五百年祭	
44	8/30, 31	SIC学生ボランティアスタッフ、SIC学生スタッフ	出店	JR主催 救急救命・防災減災ワークショップ	30
45	9/13	もとはち水縁	参加	もとはち子ども食堂ボランティア	110
46	9/13, 16, 17	YOUthBASE	主催	学生カフェ3日間開催	50
47	9/16	YOUthBASE	協力	翔陽高校2年生・探求の時間	30
48	9/20	ポラスタ	主催	竹カフェ①	9
49	9/24, 10/1	学生スタッフ	主催	ワークショップ講座	7
50	9/26~28	教員プロジェクト	主催	CAMP in Campus(防災)	23
51	9/27	若葉台	主催	若葉台遊びフェスタ2025	34
52	9/28	ゆうやけ	協力	丸山子ども会ハロウィンイベント	50
53	9/28	館ヶ丘	共催	防災フェス	160
54	10/5	佐野川	出店	さがみはら親子ふれあい広場	
55	10/10	SIC	主催	SICカフェ#4	8
56	10/12	スポーツ	共催	サッカー観戦ツアー	26
57	10/12	しろやま、学生スタッフ	参加	城山もみじ祭り	5
58	10/18	あつまれ緑区	その他	津久井やまびこ祭り取村	
59	10/18, 19		出店	多摩祭	

番号	日付	PJ名	開催方法	活動内容	参加者数
60	10/18	馬広場、寺田団地	共催	馬広場×@団地 馬とのふれあい+学園祭イベント	56
61	10/19	もとはち水縁	参加	北条氏照祭り	10000
62	10/19	学生スタッフ	出店	ユニコムプラザ「まちづくりフェスタ」	500
63	10/20	学生スタッフ	主催	SIC所属学生交流会	20
64	10/23	Fashion	主催	めじろ台テラスハロウィンイベント	10
65	10/25	ゆうやけ、佐野川、Ethical	出店	西八王子ハロウィンイベント	
66	10/25	しろやま	その他	e-bikeモニターツアー	12
67	10/26	佐野川	出店	藤野ふる里祭り	40
68	10/27	やまなみ	出店	藤野ふる里祭り	35
69	10/28、11/5、7	Circulation	主催	Circulation・佐野川 マイボトル推進イベント	35
70	10/30	スポーツ	協力	学生向けサッカー観戦ツアー-SIC所属学生有志	35
71	10/30	しろやま	参加	カワラノギクお花見会	4
72	11/3	あつまれ緑区	参加	小原宿本陣祭	
73	11/4	SIC	主催	たまらぼDEMODAY	40
74	11/8	佐野川	出店	まちのスクーレ(城西大学)	30
75	11/8	佐野川	出店	相模原市農業祭り	50
76	11/8	やまなみ	主催	安川氏の昆虫講座	20
77	11/9	若葉台	協力	芋煮会	30
78	11/14~16	教員プロジェクト	主催	CAMP in Campus(防災)	30
79	11/15	しろやま	協力	城山まちづくり会議モルック大会	40
80	11/15	馬広場	主催	3回連続講座①	15
81	11/16	しろやま	参加	津久井湖上祭	
82	11/19	学生スタッフ	主催	1年生交流会	15
83	11/20	寺田団地	共催	グリーンヒル幼稚園キャンパス体験	85
84	11/21	Fashion	主催	ファッションショー2025	80
85	11/22	法政落語研究会	その他	相模湖公民館・寄席	80
86	11/23	館ヶ丘	出店	館ヶ丘団地秋祭り	786
87	11/26	Ethical, terra, たまらぼカフェチーム	主催	Ethical×terra×たまらぼカフェチームによる ペーブル&コーヒー販売	30
88	11/27	わくわくほうせい	主催	幼稚園生向け化学実験	
89	11/28	HOSEI DEI FEST実行委員会	主催	HOSEI DEI FEST 実行委員会	100
90	11/29	佐野川、ポラスタ	出店	まちカフェ@町田市役所	約8000
91	11/30	佐野川	出店	相模原SDGs EXPO	
92	11/30	しろやま	共催	城山公民館共催「はじまり食堂」1日目	23
93	12/4、5	佐野川、Ethical	主催	佐野川茶ラテ	40
94	12/7	馬広場	主催	3回連続講座②	16
95	12/8	HTL	主催	朝ご飯配布イベント	200
96	12/8	SIC	主催	SICカフェ#5	30
97	12/10~12	Ethical	主催	100円モーニング@スローワールドカフェ	120
98	12/12		主催	モグーイベント(鉄道愛好)	11
99	12/13	ポラスタ	協力	こどもセンターばお「防災体験フェスタ」	
100	12/14	しろやま	共催	城山公民館共催「はじまり食堂」2日目	25
101	12/18	SIC学生スタッフ	主催	クリスマス会	20
102	12/19	Circulation	主催	映画上映会	30
103	12/20	佐野川	出店	都市政策セミナー・市ヶ谷キャンパス	110
104	12/20	やまなみ	共催	館ヶ丘団地「昆虫講座」	16
105	12/20	馬広場	主催	3回連続講座③	18
106	12/21	若葉台	主催	現役世代交流会	18
107	12/21	Fashion	出店	八王子サステナブルファッションフェスティバル	25
108	12/21	YOUthBASE	共催	学生カフェ	8
109	12/24	しろやま	主催	サンタdeコンサート	60
110	1/	わくわくほうせい	主催	あいほら幼稚園での実験教室	
111	1/22	しろやま、やまなみ	協力	カワラノギクを守る会(種取り)@相模原市湘南小	3
112	2/7	しろやま、やまなみ	参加	相模原市湘南小感謝祭	4
113	2/11	若葉台	主催	若葉台フェスタ2026もうすぐ春	16
114	2/28	しろやま	その他	e-bikeモニターツアー	14
115	3/8	佐野川	出店	さがみはら学園祭	
116	3/14	佐野川	出店	百草団地「青空コミュニティ春祭り」	
117	3/20~23	教員プロジェクト	主催	CAMP in Campus(防災)	27
118	3/21	寺田団地、佐野川、しろやま	出店	StepOutてらだ	200

SIC 2025年度定期活動実績一覧

PJ名	活動先	活動内容	頻度
藤野やまなみプロジェクト	やまなみ公園	公園整備(牧野創生会と協力)	隔週土曜日・3月～11月
佐野川プロジェクト	佐野川茶畑	耕作放棄地を学生茶畑として整備活動	茶畑に合わせて月1、年8回
館ヶ丘プロジェクト	自治会団地の縁側	住民向けの学生カフェを主催	毎月第3土曜日
館ヶ丘プロジェクト	自治会団地の縁側	高齢者向け個別のスマホ相談を主催	週2.3回
館ヶ丘プロジェクト	自治会～団地内	団地自転車タクシーのボランティア	週2.3回
館ヶ丘プロジェクト	館小学校	授業ボランティア	月2.3回
館ヶ丘プロジェクト	団地集会所	子ども食堂を民生委員1名と学生での共同開催	毎月第4月曜日夕方
館ヶ丘プロジェクト	たてキッチンさくら	団地に常設された地域食堂でのボランティア	週2回
若葉台プロジェクト	若葉台自治会館	自治会ワーキンググループ3の話し合い	月1回
若葉台プロジェクト	YYわかば	住宅地での居場所づくりへのボランティア	月数回(水、土)
寺田地域活性化プロジェクト(@団地)	おひさま広場	子どもたちの遊びの場「お楽しみday」を主催	毎月第3土曜日
寺田地域活性化プロジェクト(@団地)	スーパーJ-Smile	高齢者スマホ講座を主催	毎月第2土曜日
しろやまふれんず	広田小学校	授業ボランティア、各クラスでの児童サポート	月数回
しろやまふれんず	小松コスモス会	畑を借りて農作業、コスモス祭りお手伝い	農作業に合わせて月1.2回

2025年度SICカフェ実施一覧

回数	実施日	テーマ・タイトル	講師
第1回	6/6	子どもの自然体験活動から広がる社会づくりを知ろう	吉田 愛都 氏 (NPO法人グリーンウッド)
第2回	6/18	戦後80年。多摩キャンパスからもう一度平和について考える ～語り部さんによる被爆体験講和～	上田 純治 氏、永町 謙 氏 (八王子平和・原爆資料館 語り部)
第3回	7/14	ゴミ山から仕事を創り出す ガーナで取り組むソーシャル・イノベーション 環境問題×貧困問題×アート	木村 太一 氏 (MAGO MOTORS JAPAN株式会社 取締役)
第4回	10/10	茶×観光=まちおこし ～郷野ティーツーリズムから学ぶ新しい「旅」のかたち～	北川 健太 氏 (旅館大村屋15代目)
第5回	12/8	アイデアを動かし、組織を動かすプロダクトマネジメントで課題を整理する力を学ぶ	八木 誠 氏(トラバス株式会社 CEO)

メディア掲載

年月日	掲載元	掲載内容
2025/6	タウンニュース町田	「リサイクル」広がれ 法大でペットボトルロケット大会 町田市
2025/8	プレスリリース	今年もやります!救急救命・防災減災ワークショップ「学生と学ぶ、命のそなえ」JR東日本-杏林大学-法政大学-大学コンソーシアム八王子
2025/8	J:COM	法政大学 SIC 学生ボランティアスタッフ: 防災シミュレーションカードゲーム(ダイレクトロード)の開催を取材
2025/10	プレスリリース	法政大学が学生の社会的起業を支援するプログラム「チェンジメーカーズラボ in 多摩(たまらぼ)」最終報告会を11月4日に開催
2025/10	タウンニュース相模原	イーバイクで城山を駆ける 10月25日 散策ツアー参加者募集(相模原市緑区)
2025/10	J:COM	番組名:「こちらJ:COM安心安全課」 【高齢化率60%】団地住民と大学生の15年の絆 放送
2025/10	八王子ジャーニー	【10/12・無料送迎付き】法政大学サッカー部 一部昇格を応援しよう! 観戦ツアー開催
2025/11	プレスリリース	法政大学が学生の社会的起業を支援するプログラム「チェンジメーカーズラボ in 多摩(たまらぼ)」最終報告会を11月4日に開催、 最優秀賞は「復興活動×旅行」ツアーの企画・仲介を行うサービス
2026/3	J:COM	番組名:ジモトビックスプラス、LIVE! かなざわコミュニティ 「耕作放棄地をなくしたい、たまら佐野川プロジェクト」

外部連携一覧

No	連携先	取り組み内容	連携団体
1	NPOフューチャーバレー	馬とのふれあい講座	法政馬広場
2	館クリーンセンター	campincampusへ協力	campincampus・水野教授
3	相原スポーツクラブ委員会	相原スポーツ広場FUNDAY走り方教室	SICより法政クラブへ依頼
4	子どもセンターばお	防災体験フェスタ	学生ボランティアスタッフ
5	相模原市広田小学校	授業ボランティア、クリスマス会	しろやまふれんず
6	相模原市広陵小学校学童	クリスマス会、地域行事	若葉台プロジェクト
7	相模原市中澤中学校	福祉授業への参加	若葉台プロジェクト
8	相模原市湘南小学校	カワラノギク保全活動	しろやまふれんず、やまなみ
9	若葉台自治会	ワーキンググループ参加、若葉台ヒストリー開催	若葉台プロジェクト
10	若葉台納涼祭実行委員	納涼祭の出店、地域店舗の協力	若葉台・館ヶ丘プロジェクト
11	城山観光協会	e-bike観光ツアーガイド担当、特産品販売	しろやまふれんず
12	めじろ台まちづくり協議会	ハロウィン、地域イベント、まちづくり会議	イノベTeamfashion、わくわくほうせい!
13	UR都市機構	寺田・館ヶ丘団地での空き店舗活用・団地イベント	館ヶ丘プロジェクト、@団地
14	寺田活性化の会	グリーンヒル寺田での感謝祭、クリスマス会	@団地
15	牧野元気創生会	やまなみ公園整備、藤野ふるさと祭り出店	藤野やまなみプロジェクト
16	佐野川地域おこしの会	茶畑整備、藤野ふるさと祭り出店	佐野川プロジェクト
17	アグリハウスさかい	地場野菜販売	イノベTeamEthical
18	BASEL洋菓子店(長房)	野菜ベーグル販売	イノベTeamEthical
19	ゆくのさき学園	ゆくとも、リビング開催	ゆうやけプロジェクト
20	館ヶ丘自治会	防災フェス、春・秋祭り、自転車タクシー、スマホ講座	館ヶ丘プロジェクト、YOUthBASE
21	らみい子ども食堂	子ども食堂の開催	館ヶ丘プロジェクト
22	たてキッチンさくら	地域食堂・運営ボランティア	館ヶ丘プロジェクト
23	スローワールドカフェ	100円朝食、玉ねぎを寄付	TeamEthical、しろやまふれんず
24	城北自治会	オレンジコンサート、川尻八幡宮祭	しろやまふれんず
25	久保沢自治会	納涼祭、モルック大会	しろやまふれんず
26	小倉自治会	小倉灯籠流し	しろやまふれんず
27	大戸町会	防災訓練協力	SIC
28	寺田町会	天王祭協力、寺田町会運動会	SICより体育会へ依頼
29	小松コスモスの会	コスモス祭り協力、農業	しろやまふれんず
30	寺田第1.2学童クラブ	馬とのふれあい+学園祭巡り	法政馬広場・@団地
31	クローバー幼稚園	大学での体験型実験教室	わくわくほうせい!
32	あいはら幼稚園	科学実験教室	わくわくほうせい!
33	グリーンヒル幼稚園	大学キャンパス体験	@団地、学生スタッフ
34	城山湖地盤山観光振興協議会	梅ジャムラベルデザイン、高尾山ルートレポート	しろやまふれんず
35	津久井湖夏祭り実行委員会	実行委員会・出店	しろやまふれんず
36	城山地区まちづくり会議	委員会出席、子ども部会委員	SIC
37	多摩信用金庫	多摩ブルー・グリーン賞後援	SIC
38	NPO法人ETIC.	たまらぼプログラム実施運営	SIC
39	町田サポートオフィス	たまらぼ、授業、まちカフェ	SIC
40	恩方地区運動会	多世代運動会への参加	SICより体育会へ依頼
41	相模湖公民館	さがみ湖学生寄席	SICより落語研究会へ依頼
42	城山公民館	「はじまり食堂」共催	しろやまふれんず
43	ユニコムさがみはら	まちづくりフェスタへ参加	SIC学生スタッフ
44	八王子コンソーシアム	学生天国、JR防災、campincampus	学生ボランティアスタッフ、SIC
45	JR東日本八王子支社	防災イベントへブース出店	学生ボランティアスタッフ、学生スタッフ
46	元八王子町二丁目町会	水路清掃、祭り参加	もとはち水縁プロジェクト
47	長房社会福祉協議会	西ハロウィン、スマホ講座	TeamEthical、ゆうやけ、佐野川
48	八王子クールセンター	ファッションショー開催	イノベTeamfashion

【各種イベントポスター】 ※一部を除き、学生が制作しています

YOUth BASE
学生カフェ

5月21日(金) 12:00-13:00
22日(土) 10:00-13:00

大学卒業後就職活動や進学を支援します。新入生や先輩や仲間と交流する機会もたくさんあります。お気軽にご来場して、イベントに参加してください！

6月6日(金) 12:00-13:00
6月7日(土) 10:00-13:00

就職活動や進学を支援します。新入生や先輩や仲間と交流する機会もたくさんあります。お気軽にご来場して、イベントに参加してください！

6月13日(金) 12:00-13:00
6月14日(土) 10:00-13:00

就職活動や進学を支援します。新入生や先輩や仲間と交流する機会もたくさんあります。お気軽にご来場して、イベントに参加してください！

6月20日(金) 12:00-13:00
6月21日(土) 10:00-13:00

就職活動や進学を支援します。新入生や先輩や仲間と交流する機会もたくさんあります。お気軽にご来場して、イベントに参加してください！

6月27日(金) 12:00-13:00
6月28日(土) 10:00-13:00

就職活動や進学を支援します。新入生や先輩や仲間と交流する機会もたくさんあります。お気軽にご来場して、イベントに参加してください！

WELCOME PARTY
Byホーセーイノベーションクラブ

4.14 Mon-16 Wed
13:00-15:20

場所：F棟 (南館2階) (エントランス)

team fashion / ヘアドロー-芸術表現
team ethical / ドイツ中絶論議
team magazine / 芸術表現-自由創作
team circulation / photo制作-制作して楽しむ

法政大学@豊橋
豊橋大学@豊橋 1-1-1
お問い合わせ: 043-783-3014

お楽しみ DAY

日時 4/19(土)
13:00-16:00

内容 バドミントン大会
会場 おひさま広場

法政大学@豊橋
豊橋大学@豊橋 1-1-1
お問い合わせ: 043-783-3014

5月30日 開催予定!

ペットボトルロケット大会

ぜひ、最高の夏を始めよう

ペットボトルを通してプラスチックごみの現状を知り、地球のごみ問題に取り組もう！

詳しくはこちらから☆

法政大学@豊橋
豊橋大学@豊橋 1-1-1
お問い合わせ: 043-783-3014

たまらば 説明会&交流会

6/2(土) 13:00-13:30
6/3(日) 13:00-13:30

会場: 経済学棟 207号 (旧邦国)

対象者: 経済学部生、モーター (旧邦国)

内容: 先輩からの体験談、エントリーシート、就職活動の悩み、交流会

法政大学@豊橋
豊橋大学@豊橋 1-1-1
お問い合わせ: 043-783-3014

SIC CAFE Vol.004

こどもの自然体験活動から広がる社会づくりを知ろう

日時: 2025.6.6(金) 17:20-18:30

講師: 野田 賢輔 氏
場所: アンソロジーホール(旧邦国)

申込費: 中学生入場無料

忘れないことが未来を守る

春燕

出張平和資料展開催
開催日程: 6/16(月)~6/20(金) 10:00-17:00
語り部さんによる講演 (SICカフェ): 6/18(水) 15:00-16:00 (90分)

場所: 法政大学 多摩キャンパス EGG DOME 2階 ロビー奥
講師: 野田 賢輔 氏
協力: ハドド予備校 読書部、法政大学SIC

SICカフェ Vol.02

戦後80年。多摩キャンパスからもう一度平和について考える。

日時: 6.18(水) 15:00-16:30 高尾: 無料

会場: 法政大学 多摩キャンパス EGG DOME 2階 エントランスロビー

お楽しみ DAY

6月21日(土) 13:00~16:00

場所: おひさま広場
投書: 七夕あじのり

会場: 法政大学@豊橋
場所: 042-783-3014
法政大学@豊橋 1-1-1

FOOD DRIVE

6/24・25 13:00~17:00
主催: 内芝 雨天時: ペDESTリアンデッキ下

対象商品: 賞味期限が1ヶ月以上のもの、未開封のもの、食品ロスが可能なもの

SIC CAFE Vol.003

ゴミ山から仕事を創り出す

日時: 2025.7.14(日) 15:00-17:00
場所: SIC(総合2階)

相原駅おすすめグルメ

水のカエ
パンの味
和食・創作うどん部

西八王子駅おすすめグルメ

和食・創作うどん部

めじろ台駅おすすめグルメ

和食・創作うどん部

地域交流会 竹カフェ

キャンパスインキャンパス & 防災関連企画

9/20(土) 13:00-16:00 30名

防災フェスティバル

9月28日(日) 09:00-15:00

会場: 豊橋市立図書館

主催: 豊橋市立図書館

TEA TOURISM

茶×観光 まちおこし

10/10(金) 11:10-12:10

場所: 法政大学@豊橋

法政大学対東洋大学

観戦ツアー開催決定!!

10.12(土) 14:00 kickoff

法政サッカー部

観戦ツアー開催決定

10.30 THU 18:00 kickoff

[kyucha]

提供場所: 総合棟2階 SIC

日程: 10/28・10/30・11/5・11/7
時間: 11:00~13:30

たまたば 最終発表会 DEMO DAY

11月4日(土) 17:00-20:00 (19:30開演)
会場: 法政大学多摩キャンパス 学生ホール(1F) 150名定員

30万円

11/21 fri. 18:00開演 19:00開演 20:00閉演 入場料: 無料

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料無料

HOSEI INNOVATION CLUB TEAM FASHION fashion show 2025

11/21 fri. 18:00開演 19:00開演 20:00閉演 入場料: 無料

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料無料

HOSEI INNOVATION CLUB TEAM FASHION 11.21 fri.

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 18:00開演 19:00開演 20:00閉演 入場料: 無料

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料無料

HOSEI DEI FEST SUNSET RAVE 2025 - Where freedom meets the heat -

11/28 FRI 15:30-19:30

MAZ (慶応義塾大学) RANNA (法政大学) AKIRA KATAKURA (法政大学) ETSUSHI (法政大学)

法政大学 多摩キャンパス 内芝

11/28 TIMETABLE HOSEI DEI FEST

15:30- ETSUSHI
16:30- AKIRA KATAKURA
17:30- RANNA
18:30- MAZ

法政大学の個性と共創し、従来の「祭文化」を最大限に生かした、学生で盛り上げた祭文化を創る。その実現のために、今年度は「祭文化の祭文化」をテーマに、学生が主体となって、祭文化の祭文化を創る。その実現のために、今年度は「祭文化の祭文化」をテーマに、学生が主体となって、祭文化の祭文化を創る。

法政大学 多摩キャンパス 内芝

秋まつり 11月23日(日)

会場: 館ヶ丘団地 時間: 10:00-15:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

はじまり食堂

12/08 11:00-13:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

アイデアを動かし 組織を動かす

12/08 11:00-13:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

朝ごはん大学祭

12/8 11:00-12:50

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

期間限定 12/4・12/5 佐野川茶ラテ

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

100yen morning

12/10-12/12 10:00-11:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

無農薬野菜 販売します。

12月15日(月) 16日(火) 12:00-15:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

カラオケは、愛である。

12月16・17・18日 開催

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

MODPA Modem People's Agora

12/10-12/12 10:00-11:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

若葉台フェスタ 2026もうすぐ春

2/11 14:00-16:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

地域交流DAY 2025

2026.3.1 13:00-17:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

#竹カフェ ポッチャ交流会

2026年3月7日(土) 13:00-15:30

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

若葉台ヒストリー

2月10日(水) 10:00-12:00

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

GAMP in Campus

03.20・21・22

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料

館ヶ丘プロジェクト

2026年3月

法政大学 多摩キャンパス ベストリアンデッキ下 入場料: 無料



法政大学ソーシャル・イノベーションセンター

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

法政大学多摩キャンパス 1号館(総合棟)2階

TEL:042-783-3014(平日 9:00~11:30、12:30~17:00)

Mail:sic@ml.hosei.ac.jp



法政大学 SIC の最新の情報を発信中！ 各種サイト・SNS を是非ご覧ください！

X (旧 Twitter)
@SICtama



Instagram
@sic_tama



YouTube



SIC WEB サイト



SIC 学生作成
WEB サイト

